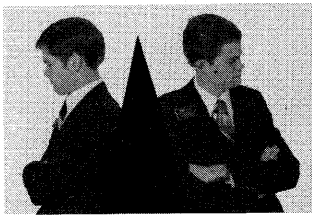


聖徒の道 8 1980





末日聖徒イエス・キリスト教会

も く じ

大管長会

スベンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

願 問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー

国際機関誌

編集人：
M・ラッセル・バラード・ジュニア
編集主幹：
ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：
キャロル・D・ラーセン
子供の頁編集：
コニー・ウィルコックス
デザイナー：
ロジャー・ギリング

聖きみたまの導き……………マリオン・G・ロムニー……………1
 質疑応答……………7
 正義への旅……………A・リン・スコーズビー……………9
 レイ・ハモン……………リチャード・G・オーマン……………15
 おじさんの木……………ヘーセル・トムソン……………21
 神のめぐみ……………マリオン・G・ロムニー……………24
 けんちゃんのお友だち……………26
 おもちゃばこ……………28
 不屈の精神……………デブラ・スポング・ハドフィールド……………29
 忘れ得ぬひとつのチャレンジ……………堀田 徹……………34
 唯一のまことの宝……………F・エンツィオ・ブッシュェ……………36
 アントニオへの訪問……………コリン・ダグラス……………40
 勝利者のくつ……………ロバート・L・バックマン……………42
 ローカル・ニュース……………44

表紙の説明

レイ・ハモン画

聖徒の道 8月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
 東京都港区南麻布5-10-30
 印刷所 株式会社 精興社
 配 送 東京ディストリビューション・センター
 東京都世田谷区上用賀4-9-19
 定 価 年間予約1,700円 1部150円
 海外予約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA 0482JA Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京0-41512
 口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
 東京ディストリビューション・センター

聖きみたまの導き

第二副管長

マリオン・G・ロムニー

聖きみたまは、みたまの導きに従うすべての人に平和をもたらす。……義人には、たとえ邪悪な世界でただひとりであったとしても、平安が与えられる。



今回のテーマとして、「聖きみたまの導き」を選んだが、本題に入る前に、ワルトハイム国連事務総長の今から6年前の演説を引用してみたい。

「私は現在の世界情勢に関して深く憂慮していることがある。そのことについて包み隠さずはっきりと申し上げたいと思う。この問題は世界の責任ある地位にある人々が意見を交換していかなければならないことである。私たちは現代の無秩序の伸展の中に呑み込まれてしまうのではないかというほとんど共通の危惧の念、つまり私たちが十分に理解すること、支配することのおぼつかない現象に対する深い憂慮の念がある。どんなに深く考えてみても将来のことに関しては悲観的なことばかりで、無力とあきらめの傾向のみが際立ってきている。私はこのことを深く憂えている。これは何も目新しい現象ではない。人間社会において変化のある時代には、その徴候が見られる前に、ほとんどどいつてよいほど悲観的な予言がなされてきた。しかし今までと違っているのは、そういった現象を引き起こす問題の規模である。……

今日このような対応を迫られる課題に直面している文明は、一地域に限らず人類全体に及んでいる。」(国連総会の演説、1974年8月30日)

率直に言って、現代が混乱と困惑のうずまきに陥っている時代であることはだれしもが認めるところであると思う。世の中の情勢が悪化するにつれて、このまま進めば災いが下ることが日増しに明らかになっており、その中で私たちが安全に生活するには聖きみたまの導きに頼る以外ないと、私は信じている。なぜこのように好ましくない状況

に注意を向けるかと言えば、それは何も皆さんを落胆させる気があってのことではない。今日の世界の現実の姿をはっきりと認識していただきたいからである。

私自身は落胆していないし、気がかりではあっても、恐れてはいない。このような話がある。J・ゴールデン・キンボール会長が生前あるステーキ部大会に出席した時のこと、彼の前の話者が最初から最後までそれこそ引きも切らずに激しく悔い改めを呼びかけた。それを聞いていたキンボール兄弟は自分の番になった時、「兄弟姉妹の皆さん、私たちは皆、家に帰って自殺したほうがよいようですね」と語ったという。

これと同じように現代も容易ならぬ状況にあるが、そうかと言ってキンボール兄弟の言葉をそのまま勧めるわけにはいかない。というのも、聖きみたまの導きに従うならば、主は必ず私たちを安全に守って下さるという揺るぎない確信が、私の心にあるからである。

私たちは瀬戸際まで来て、どうにか平衡を保っているが、このような状態も主にとって何ら驚きではない。主は災いが来ることを御存じて、逃れる道を備えておられるからである。1831年11月1日に、主はこのように言っておられる。

「主なるわれ、この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば、わが僕ジョセフ・スミス(二代目)を呼び天より語りて彼に誠命を下せり。

また他の者どもにもこれを世の人々に宣ぶ様誠命を与えられた……。」(教義と聖約1:17-18)

主はこの前の節で、災いが下る理由を次のように説明された。

「彼ら（この世に住む人々）は主の義を打ち建てたために主を求めずして、あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求めども、その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。そは古びてついに……朽ちん。」（教義と聖約1：16）

ところで、主がジョセフ・スミスを呼んで、彼と他の人々に、世の人々に対して宣言するようにと命じられた戒めの中で与えられている逃れる手段とは、みたまの導きである。この戒めの中で、主はみたまの導きが実存し、すべての人がそれを得られることと、みたまの導きに従うならば個人の問題であれ、国家の問題であれ、あるいは国際問題であれ、すべての問題を解決に導けることを具体的に、力を込めて教えておられる。みたまの導きを享受することはすべての人に生まれながらに与えられている権利であるということが、教義と聖約84章に次のようにわかりやすく説かれている。

「『みたま』は世に来るあらゆる人々に光を与え、また『みたま』はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照すなり。

この『みたま』の声を聴くすべての人は神に来る。すなわち、御父の許に来るなり。

御父はこの者に、汝らに新に結びて確認したまいし誓約（イエス・キリストの福音）を教えたもう。而してこの誓約は汝らのために確認したまいしものなれども、ただに汝らのためのみならず、また全世界のために為したまいしなり。」（教義と聖約84：46—48）

あらゆる人はキリストのみたまによって照らされると共に、みたまの導きに応える能力を授けられるという実に重要なこの真理は、人間はもともと霊の存在であるとい

うことを念頭において考えると非常によく理解できる。すべての人は生まれながらに神の霊の子供なのである。それゆえ、すべての人には、霊として存在した前世から、みたまのさきやきに本能的に応える能力が具わっているとするのは当然のことである。

「この『みたま』の声を聴くすべての人は神に来る」という真理は、聖典の中でたびたび説かれている。教義と聖約第93章にはこのようにある。

「誠に、主かくの如く言う。その罪を捨てわれに來り、わが名を呼び、わが声に従い、わが誠命を守るあらゆる人々は、わが面を見てわれ在るを知ることをあらん。

また、われは世に来るあらゆる人を照らす真の光なる……を知ることをあらん。」（教義と聖約93：1—2）

一方、みたまの導きを拒み、主に逆らって悪魔の誘惑に従う人は、現世的、肉欲的で、悪魔につく者となり、反対の方向に進んで行く。それについてリーハイはこのように記している。

「それであるから、人はみな現世に於て自由であり、およそ人間のためになるものは何でも与えられる。そして万人に為したもうメシヤの大いなる賢い仲裁によって自由と永遠の生命を選ぶか、また悪魔は万人が自分のようにみじめになることを求めているから、その束縛と力とに由って定まる束縛と死とを選ぶか、これは全く人間の自由である。」（II ニーフアイ 2：27）

みたまの導きを受けてそれに従うことは非常に大切である。これによって義人と悪人とが区別されることを考えれば、その重要性はいくら強調してもし過ぎることはないのである。主は次のように言っておられ

る。

「おおよわが許に来らざる者は罪のかせの下にあればなり。

これに由りて、汝ら義しき者と悪しき者との区別を知り得ん。然も、全世界の人々は今なお罪と暗黒との下にうめくのを知り得ん。」(教義と聖約84:51, 53)

この教えは、聖典の中で何度も繰り返し教えられている。例えば、教義と聖約第93章ではこのように記されている。「すべて、光明を受け入れざる霊を有つ人々は罪を受く。」(教義と聖約93:32)

この一連の教えから、みたまの導きを受けけるか否かは本人次第であることがはっきりとわかる。この世に来る人は皆、みたまの光を受け、自由意志を与えられているので、自由意志をどのように行使するかは各人の責任なのである。

こうしてみると、どっちつかずという立場はなさそうである。聖きみたまの導きを拒むことは、自分の知恵と悪魔のささやきに身を任せることだからである。イエスがニーファイ人に教えられたように、そのような人は「しばらくの間その業を喜ぶこともあらんも、次第に終りの日近づき来りて、これらは切り倒され、一度入らば二度と出る能わざる火の中に投げ込まれ」(Ⅲニーファイ27:11)るであろう。歴史や聖典や日日の経験すべてがこのことの真实性を確認している。靈感を受けない人の知恵では、決して困難を解決することはできないのである。

時間はもうあまりない。しかし、必要とされる数の人々が謙遜になって聖きみたまの導きに従いさえすれば、世界的な災いは避けられるであろう。では、それができな

い場合にはどうなるだろうか。この点に関しても、主ははっきりと啓示を与えておられる。数ある中で、次のような啓示がある。

「無人の境となるほどの懲しめこの世の人人の中に出て来り、世の人々悔い改めずんば度々引きつづき懲しめを蒙りてこの世は空しくなり、世の人々はわが来る時の光輝により焼きつくされてことごとく亡び失するに至ればなり。」(教義と聖約5:19)

しかしながら、世の人々が災いから逃れる道を選ぶかどうかは、私たちがなすべきこととは無関係である。ただ、私たちは最善を尽くして啓示されている逃れる方法を彼らに伝え、そしてそれを受け入れるように全力を尽くして願わなければならないことは言うまでもない。また私たちは自身に関してはヨシュアと同じ立場を取らなければならない。ヨシュアはイスラエルの民にこのように言っている。

「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは主に仕えます。」(ヨシュア24:15)

聖きみたまは、聖きみたまの導きに従うすべての人に平安をもたらす。エノクの民や黄金時代のニーファイ人に見られたように、聖きみたまは確かにすべての民に恒久的な平和をもたらす。また同様に、義人には、たとえ邪悪な世界でただひとりであったとしても、平安が与えられる。

主のみたまの励ましを失い、反抗的で、強情で、不信仰になった民を率いていたモルモンは、息子のモロナイに次のように書いている。

「しかし私の愛する子よ、民が強情であるにもかかわらず私たちは熱心に努めようではないか。私たちは一切の義しいことに

敵する者に勝って神の王国で私たちが安息につくために、この肉体を持っている間になさねばならぬ務めがあるから、もしその務めを怠るならば罪のある者とされなくてはならない。」(モロナイ 9 : 6)

予言者ジョセフ・スミスはカーセージに向かう途中、次のように語っている。「兄弟たち、心配するには及ばない。彼ら(騎馬兵の一団)はあなた方に対して、昔、真理の敵が聖徒たちにした以上の危害を加えることはない。彼らは私を殺すだけである。」その少し後にこう語っている。「われは、今ほふり場に引かる子羊の如く行く。されど、わが心は夏の朝の如くに穏かなり。わが良心は神に対しましたすべての人に対しいささかの咎めもなし。」(*History of the church*「教会歴史」6 : 554—55 ; 教義と聖約 135 : 4)

聖きみたまの導きに従っている人々や個人を落胆させる手段はまったくないし、打ち負かす手段もない。聖きみたまの導きに従っている人は、救い主の次の言葉の意味がわかっている人である。

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ 14 : 27)

教義と聖約第 9 章には、みたまの導きを得ていることを確かめる方法が記されている。

主はオリヴァ・カウドリに、金版の翻訳に関して次のように言われた。「汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しければ汝願わざるべからず。願うこと正しければ、その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感じしむ。」

(教義と聖約 9 : 8)

『みたま』は世に来るあらゆる人々に光を与え(教義と聖約 84 : 46) ということを知えていただきたい。人は皆その心にキリストの光を持って生まれてくるが、全世界の人を導くその光を拒むと、現世的、肉欲的で悪魔につく者となる。この点についてはどの聖典も一致している。『みたま』は世に来るあらゆる人々に光を与え、ということと同様に、『みたま』はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照らし、「この『みたま』の声を聴くすべての人は神に来る。すなわち御父の許に来る」(教義と聖約 84 : 46—47) ということを知める必要がある。

みたまの導きを得て、その導きをいつも保ち続けたいと思う人は、これから申しあげる 4 つの事柄を実行していただきたい。

1 番目は祈ること、それも熱心に祈ることである。互いに祈りなさい。人前でも祈りなさい。しかし、次の救い主の勧告を決して忘れないように。

「あなたは祈る時、自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れたところにおいてになるあなたの父に祈りなさい。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。」(マタイ 6 : 6)

主に話しかけるように話しなさい。熱烈な信仰と確信とをもって主のみ名を呼び求めなさい。

2 番目は、福音を学ぶこと。

3 番目は、義にかなった生活をする。自分の犯した罪を告白し、捨て去ることによって罪を悔い改めなさい。そして、福音の教えに従って生活することである。

4 番目は、教会で奉仕することである。

この4つの事柄を実行してゆけば、世の人々が何を言おうと、あなたは聖きみたまの導きを得て現世の生涯を幸福に送ることができるであろう。

最後に、今回のテーマ「聖きみたまの導き」に関連して啓示の中から2、3の言葉を引用したいと思う。

この啓示の初めの部分で、主は、説得力のある言葉で、しかも嘆願の思いを込めて、人々にまだ時間があるのでみもとに来るようにと呼びかけておられる。

そして、残りの部分の多くは、主が天の雲に乗り、栄光をもって来られる主の再臨のしるしについて、弟子たちに再度言われた言葉である。主は、再臨のしるしに関する使徒たちの質問に答えて、これらの言葉を述べられた。またこの啓示の中で、主は予言者ジョセフ・スミスに同じことを述べておられる。

しるしのひとつとして、「暗きに坐する者の中に光輝やき出でん、この光はわが完全なる福音なりとす。

されど彼らはその光を受け入れず。そは、彼ら光を認めざれば、人の教えの故によりてわれにこころを背くればなり。」(教義と聖約45：28—29)

また、「……戦につきて聞かん、また戦のうわきにつきて聞かん。全世界は揺れ動き、……地に溢るる懲しめを見終りて後……世を滅ぼすべき疫病、地を覆うべければなり。……悪しき人々の中には、声を挙げて神をのろい死ぬる者たちあらん。

また地震も至る所に起り多くの荒廃は来らん。されどなお人々はわれに向いてこころを頑固にし、互いに剣を執りて殺し合うべし。

およそわれを畏るる者は、来るべき主の大きいなる日、すなわち人の子の来る徴を待ち望みつつあらん。

……見よ、われ来らん。而して彼ら、われ能力と大きいなる栄光の衣を着けて天の雲に乗り、すべての聖き天使らと共に来るを見ん。而して、およそわれを油断なく待たざる者は断ち切られん。

それより、主の腕は諸々の国民に下らん。かくて侮る者は災を蒙り、嘲る者は焼きつくさるべし。また悪を待ち構えし者は叩き伐られて火に投げ込まれん。

わが栄光をもって来るその日に、十人の処女につきてわが語りしたとては成就すべし。」

これが本当の試しである。

「賢くして真理を受け入れ聖霊の導きに従い騙されざりし者は、誠にわれ汝らに告ぐ、彼らは伐られて火に投げ入れらるることなくその日に堪うるべし。

地はゆずりとして彼らに与えられ、彼らは殖え満ちて強くなり、その子孫らは罪を犯すことなく育てて救いに至らん。

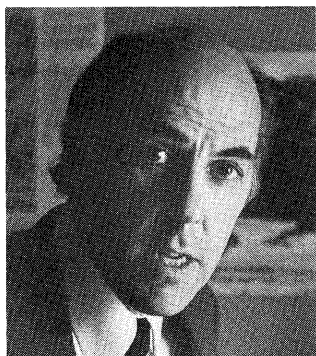
主は彼らの中に在りてその栄光は彼らの上に輝き、主は彼らの王にして立法者たるべし。」(教義と聖約45：26, 31—33, 39, 44, 47, 50, 56—59)

私たちはまだまだ熱心さが足りない。それ故、私たちは聖きみたまの導きを求めて欺かれないようにしなければならない。

私たちに神の恵みがあるように。そして、私たちを導く聖きみたまを敏感に感じ取り、それによって目的を達成すると共に与えられた現世の報いを得られるよう、イエス・キリストのみ名により祈る。アーメン。

質 疑 応 答

本誌の回答は問題解決の一助として与えられたものであり、
教会の教義を公式に宣言するものではありません。



エリック・ステファン
ユタ州プロボ, エッジモント第11ワード部
日曜学校教師, ホームティーチャー

「ホームティーチング・プログラムに
関して、家族にはどのような責任があ
りますか。」

これは実に素晴らしい質問です。私たちはホームティーチングといえば、ホームティーチャーの仕事と考えることがよくあります。そして家族の側の責任は、訪れてくれたふたりの友人と少しの間世間話を楽しみ、それから受け身の態度で彼らのメッセージを聞くだけのことと考えてしまいます。

実際にはホームティーチャーは、「父親の要請によって家族が完成に向かって歩むのを助ける大切な存在なのです。」（「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」メルケゼデク神権定員会用

テキスト, 1975—76, p. 226) つまりホームティーチャーには、父親もしくは父親がいなければそれに代わる家長に指示を求め責任があります。言い換えれば、家族には、効果的な訪問ができるようにホームティーチャーに指示を与える責任があるのです。

家長は、家族が日頃必要としている事柄をホームティーチャーに伝えることにより、メッセージを選ぶ助けができます。また、家族を見守り強めるように要請して、励ますこともできます。家長である父親が不活発な教会員である場合、母親は福音の原則に従って夫婦で家族に必要な事柄を話し合い、また家族全体の活動を夫婦で計画して夫の承認を得、さらにホームティーチャーには夫から指示を求めるよう要請します。

最も幸福なホームティーチャーは、家族が本当に必要としていることを満たすホームティーチャーだと思います。ある父親の話をお紹介しましょう。彼はホームティーチャーに、家族一人一人の半年間の目標を書いた紙を渡して、親子が共に目標を達成できるように援助を求め、励ましと理解の手を差し伸べてくれるように頼みました。この父親は、ホームティーチャーが家族を見守り、家族に援助を与えることができるように助けていたのです。ホームティーチャーは問題解決を助ける第一人者ですから、父親または家長には彼らを信頼して助けを求める義務があります。



クリフオード・J・ストラトン博士
ネバダ大学医学部解剖学助教授、ネバダ州
リノ北ステーク部高等評議員

「茶やコーヒーには人体に有害な成分が含まれていますが、厳密にどのような作用があるのでしょうか。」

茶やコーヒーの作用は、その成分である2種類のアルカロイド、すなわち全世界どこでも植物の中で自然に合成されるカフェインとテオフィリンに起因します。これらの成分は一括して「キサンチン誘導体」と呼ばれます。人体に及ぼす影響や化学的な作用が非常に似通っているためです。

アスピリン（その他市販の多くの薬）にもキサンチン誘導体が含まれています。¹ キサンチン誘導体は薬として使用する分には有益ですが、乱用すると有害な作用が現われます。

キサンチン誘導体は脳と脊髄を刺激して、心臓の機能を増大し、脳血管を収縮します。（特に作用の強いアスピリン合成物が頭痛に劇的な効果を上げるのはこのためです）また、気管支筋を弛緩することにより呼吸

障害を和らげ、手足の骨格筋の収縮を起こし、尿の生成を促進し、胃液の分泌を高め、総体的に代謝率を増大します。² これらの作用から明らかなように、注意深く調剤すれば多種多用の治療に用いることができますが、乱用すれば重大な副作用を招くこととなります。

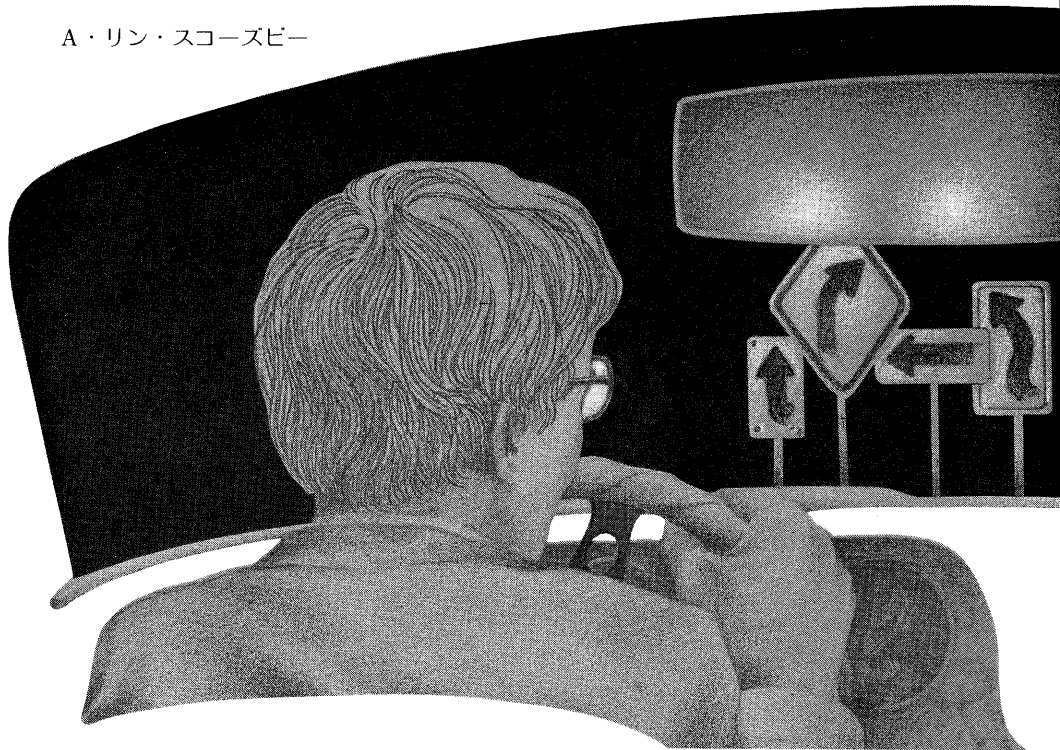
茶やコーヒーにはタンニンが含まれているので飲用を避けるべきだと考える人がいます。しかし、タンニン酸も使い方によっては有益な治療薬になります。組織を収縮させて出血を抑制するほか、下痢の治療にも効果があります。ただしタンニン酸はキサンチン誘導体ではありません。

キサンチンを過剰投与すると、下痢、めまい、不安、ふるえ、頻繁な排尿、不眠など、多くの有害な症状が現われます。そして投与を中止すると、激しい頭痛が起こります。過剰投与量には個人差がありますが、ある研究者の報告によれば、カフェイン50—200 mgでこれらの症状が現われるということです。¹ また2種類の主要な薬理学のテキストでは、最大有効量を250mgとしています。² 180ccのカップ1杯のコーヒーには100—150mg、同じく茶には65—75mgのカフェインが含まれています。¹

1. J. F. Greden, "Anxiety or Caffeinism : A Diagnostic Dilemma" American Journal of Psychology 131 (1974) : 1089—92.
2. J. C. Ritchie, "Central Nervous System Stimulants, the Xanthines" in The Pharmacological Basis of Therapeutics, ed. L. S. Goodman and A Gilman, pp. 367—68 E. B. Truitt, "The Xanthines" in Drill's Pharmacology in Medicine, 46th ed., ed. J. R. Divalpa, pp. 533—56.

正義への旅

A・リン・スコーズビー



この福音が真実かどうか自分にはまだわかっていないと悟ったのは、ちょうど18歳で、ブリガム・ヤング大学においてモルモン経のクラスで勉強している時でした。これまでたくさんの賞を獲得し、どの教会活動にも活発に参加し、常にこの教会は真実だと思っていた私にとってこのことは大変なショックでした。しかし、事実私はそう思っただけで、本当の意味で知っていたのではなかったのです。

そこで教えられた通りに信仰を持って、アルマ書第32章とモロナイ書第10章4―5節の教えを実行したところ、自分が求めて

いた証を神から受けたのです。

ここでは、私が福音に従おうと努力した時の経験や心の変化を御紹介したいと思います。言うまでもなく、人の霊的な成長は、その人自身の問題です。私と同じ経験や感じ方のできる人はだれひとりいません。しかし、それでも普遍的な原則や概念はあるでしょうし、私の経験がどなたかの参考になるかもしれないと思うからです。

段階1. 問いかけること

聖霊を通して私が主から受けた証は、私に義を求める心を起こしました。その後私

は正義とは何かと自分に問いかけてみました。その質問自体は正しかったのですが、その時、間違っただけの下でその答えを捜し始めてしまっていたのです。私は、自分が受けた証の小枝が、とりわけ自分を心にかけておられる神の存在の強力な証明であることに気づかなかったのです。この何気ないようで重要なことが、なぜか私に欠けていたのです。私はその時まで、祈りを、神と交わる手段としてではなく、祝福を得るための手段として考えていました。しかしその時から、祝福を得るために祈るのではなく、主のみたまと交わるために祈るのだということがわかってきました。そして、主のみたまとの霊的な交わりは祝福というよりも、私たちをより良くするために働きかけるものであることを知ったのです。

段階2. 正義とは、ただ教会のすべての責任を果たすことだろうか。

私は、正義というのはとりもなおさず教会指導者から言われたことを全部実行することだと考えていました。正義を制度というか、特定の規則のように考えていたのだと思います。そこで指導者が言われることをそのまま自分の目標にして実行し始めました。伝道に出て、神殿で結婚し、すぐに大祭司に聖任され、副監督に召されました。それからいろいろな召しを受けました。神殿には定期的に参入し、糸図を調べ、家庭の夕べを開きました。什分の一や献金を納め、ワード部管理運営費や建築資金を納め、とにかく監督の言うことは何でも行なってきました。

そのような活動によって受けた恵みが大きかったことは否定できません。しかし、その結果自分が目に見えて義人になったというわけではありません。なぜかいつも罪悪感や至らなきの感を拭い去ることができ

ませんでした。細々した欠点や悪い心が依然として残っており、教会活動だけでその罪を取り去ることができるとは思われなかったのです。

これまでの努力では罪をなくすことはできないと感じた後に取った最初の対応策は、自分の努力を倍加することでした。するといつのまにか、教会で成功していると認められることや成功の目安となるものを得ることにこだわるようになっていたのです。多くの人と同じように、私は、上位の役職に召されることが主に認められることだという間違っただけの考えを持っていたのです。この誤った考え方を取り除くのに何年もかかりました。

教会のすべての活動に積極的に参加するという目標によってもたらされたもうひとつのことは、教会指導者から受ける指示をすべて理解することができないために、時折、自分自身が罪の意識やうっ屈した気持ちになったことでした。ある時には「これをしなさい。これが一番大切なことですから」と言われたかと思うと、別の時にはほかのことを最優先するように言われるのです。ふたつの「良いこと」の板ばさみになった時、言われたことは何でも行なうという自分の目標では、難しい決定を下すのに何の助けにもなりません。教会や家族の責任をいつも満足のいくかたちで果たすにはどうしても時間が足りないものですから、いつも挫折感や罪悪感が残るのです。

しかし、私は幾つか大切なことを知りました。まず第1に正義という目標は今まで通りでよいが、それを達成する手段が間違っていたことに気がつきました。天父から与えられる内的な確信よりも外的な証拠を欲していたのです。第2に、人々の期待に応えることは絶対可能なことではないし、また応えたからといって自分がまったくの

義人になれるわけでもないのです。そこで私は再びやり直すことにしました。

段階3. 正義とはただ罪をなくすことだろうか。

その次に私が行なったことを思い出すと苦笑してしまいます。正義ということは自分の中に巣くうすべての罪を追い出すことに関係しているとわかった私は、とにかく罪を犯すまいと決心しました。罪を取り除くこと自体はまじめで大変なことなのですが、用いた方法は今にして思うと実にこっけいでした。しかし、その時の私は真剣でした。

自分の罪を取り除くには、まず罪がどういうものか知らなければならぬと思いました。そこで私は自分を他の人と比較してみたのです。そうしてみるとどうやら自分はそれほど悪人でもないように思えてきました。正直言って、この段階はなかなか痛快でした。他人の欠点ばかりを見ると、自分の罪や敗北感が薄らいでいく気がしました。そんなわけで、これも大した効果が得られませんでした。それからしばらくは、自分は大きく変わる必要もないと高をくくっていましたが、そんな幻も長くは続きませんでした。良心が罪のみ消しを許さなかったのです。

私が再び自分の罪を見きわめようとした時は、前よりも幾分か慎重になっていました。私は何が罪で、何が罪でないかをじっくりと考えました。その結果、実は自分は行動を引き延ばしていたのであって、自分は何者でどの点を変えなければならぬかということについて、もっと客観的になれるはずだということに気づいたのです。

私はこれまで、聖典や現代の予言者たちが言う様々な警告はまったく自分には当てはまらぬと考え、自分の罪を正当化しようとしていたのです。そうした枠組の中で、

自分を他人よりも上に据えていたのです。しかし自分の罪を真正面から認めることができるようになると、罪を取り除くこともそれほど恐ろしくなくなり、むしろ積極的な気持ちさえ出て来ました。

私は早速、罪をなくす計画を立てました。その計画というのは、汚れた思いを抱かない、嘘をつかない、引き延ばしをしない、短気を起こさないことなど、罪は犯さないことを自分自身に強く言い聞かせることでした。何度か失敗もしました。しかしそれにもめげずに頑張ってきたお陰で、ふたつの大切なことに気づきました。第1に、罪を避けるよう努力し、それができていると、聖霊を通して確認されているような温かい気持ちをいつも受けることができるということです。第2に、考えてはならないと自分に繰り返して言い聞かせたことが、かえって、前よりもっと頭に浮かんでくるようになることがあるということです。

この点に関して、私の問題となっていたのは、今だからわかるのですが、罪を自分と競争するもの、あるいは自己と対立するものとして見ていたのです。そのような罪と闘い、罪を打ち破っていかなければならない、正義とはそのような強い意志によって得るものだと思っていました。そのような考えは事態を長びかせるだけで、少しも解決にはなりません。この段階での問題は、私の見通しが甘かったことでした。私は何かをしようとして試みているのではなく、しないように努力していたようです。罪を明らかにするのではなく、自分が得たいと思う特質を明確にしてゆくべきであったと思います。

そんなわけで私は正義を求めて努力したのですが、結果としてたいいの罪はそのまま残り、中には努力し始めた当時より悪くなったものもありました。依然として、

自分は所詮敗北者であるという考え方を拭い去ることができませんでした。

段階4. 物事をありのままに受け入れる。

この策も、前と同様大した効果を上げることができませんでした。希望もなくなっていました。そこで私はとにかく現実を受け入れなければならないと思いました。自分を変えられなかった事実を受け入れ、その状況の中で可能な限り立派な人間になろうと努力することが必要だと考えました。私は日の光栄の王国に行けるような人間にはなれないとあきらめていたのです。本当の問題は、変わる方法をまるで知らなかったことでした。

この頃が多分私の人生で最も不幸な時期だったと思います。教会活動がすでに習慣になっていたので、教会には出席していました。しかし教会の召しをいかげんに果たすのは実に簡単なことであることがわかったのです。例を挙げれば、ホームティーチングもこれまで通りきちんと行っていたのですが、たいてい月の終わりに申し訳程度にするだけでした。礼拝行事でも上ついた気持ちで心は一向に定まりませんでした。外面ではなすべきことをすべて行なっているようにしていましたが、内心はひどく傷ついていました。神は自分なんか愛しておられるはずはない、自分は愛されていないと思ひ込み、死後に報われることもないと絶望していました。

たいていの人は、程度の差こそあれ、このような気持ちを経験すると思います。教会活動からまったく手を引いて人々の白い目に耐えられるだけの度胸もないし、そうかといって真剣に正直に打ち込むこともしません。どっちつかずの人間でしかないのです。例えば、日曜学校で教えていても、まだ本気でレッスンに取り組んだことは一

度もないとか、断わる理由も特にないので福祉の責任を引き受けるというようになっていきます。また多少偽善的に思われる話し手や指導者を非難したり、祈りが大げさで型通りになったりしています。また教会が抑圧者のように、圧力をかけ、罪の意識を掻きたてる巨大で複雑な機構のように思われてくるかもしれません。そして、他人との間に一線を引いて、罪悪感や不満を自分の中にしまい込んでしまうのです。

私自身そのように感じていましたが、そのことについてはだれにも話していないと思います。当時、私はまだ人生の方向が定まっていなかったのです。

段階5. 発見

しかし私は、そういう憂うつな状態や孤独がどうしても我慢できませんでした。元来、明るい性格だったのかもしれませんが。このような孤独の中で、私は、自分の精神生活を高めてゆくのはほかのだれでもない、自分であるということを知ったのでした。

他人にどう思われるかよりも自尊心の方が自分には大切であるということに気づいた時、新しい選択の場が目の前に急に開けたような思いがしました。自尊心も他人の考えに左右されている間は、自分が何をし、何をしてはいけないかを定めることはできません。その時私は、自由な選択もできず、正義というものも理解していなかったと思います。なにしろ正義とは、私たちが適合させてゆかなければならない一連の複雑な外部的規範だと決めてかかっていたからです。

しかし、私が本当の選択の自由を発見したのは、自分は掛け替えない神の子供であり、自分の永遠の幸せは自分でつかむしかないと考えられるようになってからです。そしてこのような自分に対する見方は、決して利己心からきたものではないというこ

ともわかりました。むしろそういう見方を他人に対してできない時こそ利己的になっているのです。

私たちが何かを言ったり、行なったりする時、必ずそこにいろいろな理由があります。親切な行ないをする時も、与えることによって得られる幸福感や満足感を求める気持ちと共に利己的な気持ちの両方の動機が考えられます。だからといって与える人が皆利己的だということではありません。良い気持ちになれるから良いことをしたいというのは悪い動機でも何でもありません。

段階6．真実の正義の原則

私はこれまでの経験と考え方、すなわちわびしい思い出と、自分も変わることができたという思いで身を固め、正義とは何かという問題について再び考えてみました。ブリガム・ヤング大学のモルモン経のクラスで蓄えた主の教えが、力強く蘇ってきました。私はそれまでモルモン経が神から与えられた書物であると知っていました。しかし私にとってははるかに重要だったのは、神がおられるという実感でした。私は神に祈って尋ね、神はその存在を明らかにして下さったのです。

このことがなぜそんなに大切なことだったのでしょうか。それは、神を知ることは正義の基だからです。(ヨハネ17：3参照) 神は私たちを愛しておられたので、御自身を現わされ、私たちが神のようにになれるようにして下さいました。

私は、自分の性質が神の属性に似た要素を持っていること、そのため自分自身の中に己れを磨く力が存在すること(教義と聖約58：28参照)を、これまで知りませんでした。救い主は、「神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」(ルカ17：21)と言われました。また「まず神の国を求めなさい」

(マタイ6：33)とも言われました。私はそういう正義の状態を自分自身の中に造り出すまで努力しなければならないことを知りました。

主に近づくにつれて、私が知った最大の喜びは心の平安、すなわち主との交流から得られる言い尽せないほどの愛です。以前なら、そのような交流を求めたいと望むことが、何かを実行する理由になったことはほとんどありませんでした。しかし、今ようやく、正義を判断する確実な基準を見いだすことができたのです。

私の価値や進歩は実際に人々から受け入れられているかどうかは別にして、名声や富、権力や人気、そのほかいろいろな不完全な基準によって計ることはできないのです。私の本当の価値は、自分が天父のようになってきたことを聖霊からどれほど多く啓示されるかで決まります。本当の正義とは神について知り、神のようになることです。

勉強によって天父の特質を確認した私は、次にその特質を身につけて主に似た者になるための3つの段階を学びました。

第1に、外部からの働きかけがなくても、天父が私に何をし、どう言うように欲しておられるのか、考えて実行する自由意志を行使しなければなりません。これは意識的な選択であり、努力ですが、闘いでも競争でもない、自分から望んでの行為です。第2に、その選んだことを行動に移すことです。そして第3は聖霊との交わりです。すなわち自分の選択は正しかったという証、自分は進歩しているという証拠、天父が自分を愛しておられるという確証です。

例えば、天父のようになろうとする私の最初の試みは、自分の気持ちを抑えることでした。時折、私は仕事から疲れて不機嫌になって帰宅することがあります。そのような気分を家に持ち込めば、良い夫や父親

になれません。そこで毎日機嫌よく、にこやかに帰宅できたら、もっと主に近づけるだろうと思いました。自分から進んでそうしようと思い、そう実行するように決められました。私はその選択に従って行動し、経験を通して自分の気分は変えることができることを知りました。そのために私は、家から5分の所にある建物を目印にし、帰宅の途中でその建物の所まで来たら頭を家族の方に切り換えて、家族に会うのを楽しみにするようにしました。意識して子供たちと遊んだり、妻と一緒に過ごす楽しい時間を思い出したり、夫や父親であることの祝福を思い浮かべたりしました。それが私にはとても効果的だったようです。今ではほとんど機嫌よく帰宅することができます。と同時に、自分の努力が主から認められたと感じられるようになり、それが神に近づこうとする他の努力に対しても大きな励みになりました。

神に近づきたいという望みが大きくなるにつれ、正義をめざす前述の3段階を実行することによって、教会の責任や家族や自分自身に対する見方が極端に変わってきました。義務感から行っていたホームティーチングが、これも神の特質を自分の身につける手だてであると確信して意欲的に行なうことができるようになりました。これで動機は十分です。自分は成長し、相手の人たちも祝福を受けるのです。教会のすべての責任を果たすことがそのまま正義につながると考える代わりに、教会のプログラムは望ましい特質を伸ばす最良の場であると思いますが、その特性のひとつは人を愛し、奉仕することだと思います。人目を気にしたり、習慣から聖餐会に出席するのではなく、主のみたまと交わる能力を伸ばすことができるから行くのです。

神のような特性を身につけるのに最も有

効な場は、多分家庭でしょう。私は家族についても、子供を愛し、気づかうべき義務の伴うものとして見るのではなく、家族は成長と喜びの一番の源であり、他人が自己を見い出して幸せになれるよう助ける最も素晴らしい場所であると考えようになりました。家族は教え、笑い、愛し、働き、成長する一刻一刻を一緒にかみしめていく必要があると感じています。

さらに、自分の罪や罪との闘いについての考え方も大きく変化しました。正義をめざす過程を経験していけば、天父に似た特性を身につけるにつれて、自分の罪も消えてなくなることがわかってきたのです。例えば、以前は怒りを抑えるのに費やされたエネルギーが、今は柔和の方を選び、それに添って努力することに向けられています。怒りも入り込む余地がなく、出番はなくなってきたわけです。教えること、愛することにもますます関心が高まってきたのです。

私を一番よく知っている人、とりわけ自分自身がどんなに想像力を働かせたところで、また自分は決して義人になったとは言えません。喜ばしい結果をもたらすような選択をしていながら行動が伴わない時には、憂うつになることもあります。きっと皆さんも同じようなことを経験したことがあると思います。しかし、いつでも正しい目標を持っていたために、結局喜びと力の祝福を受けることができたことを何度も経験しました。最後の日に、神は私にふたつ質問されるのではないかと思います。ひとつは、「あなたはこれまで何をしましたか」という質問であり、この質問には、比較的簡単に答えられると思います。しかしふたつ目の質問「あなたはどのような人間になりましたか」と尋ねられた時に、「あなたのようにになりました」と答えられるようになりました。と思います。

このニュージーランド一流の画家はまた熱心な末日聖徒でもある。



レイ・ハモン

レイ・ハモン

リチャード・G・オーマン

1976年、エリザベス女王が旅行でニュージーランドに立ち寄られた際、政府はこの国で最も有名な風景画家レイ・ハモンが描いたペン画の大作を贈呈した。この国がレイ・ハモンに寄せる最大級の敬意は、末日聖徒にとってとりわけ意義深いものがある。というのもレイ・ハモンは14人兄弟の長子であり、自らも14人以上の子を持つ、生まれながらの教会員だからである。このニュージーランドの風景を描いた「オカリトの宝石」は、現在イギリスにある女王の宮殿に飾られている。自分の生まれた国からこれほどの荣誉を受けた末日聖徒の芸術家も珍しい。

白人を母に、混血のマオリ人を父に持つレイは、ニュージーランドの北島東岸のギスボーンで育った。家は貧しかったが、みんなは熱心に働いた。少年レイは両親を助けて、家の周囲の原始林を開墾し、農場の規模を次第に広げていった。父母は朝な夕なに子供たちを集め、きれいに掃除した土間に、ひざまずいて家族の祈りを捧げた。キウイやウエイカの鳴き声と、木の葉のさらさらいう音が子守歌であった。

成長したレイはウレウェラ地区に入って、牧羊舎を建設するための土地開発の仕事に就いた。レイは林業とはどういうものかを学んだ。そしてそこに生息する動物、さら



に土地そのものまでも愛するようになったのである。森の中で暮らすようになって、レイは葉の形や色まで見分けられるようになった。さらに、昆虫にまで細やかな観察の目を注ぐようになった。

しかし、レイは自然だけを愛する世捨て人ではなかった。隣人も同じように愛した。結婚して間もなく身近な親戚が亡くなると、レイと、そして結婚したばかりの妻はその子供たちを養子に引き取った。それから数年後に、妻は洪水のあと病気の子供を看病していてチフスにかかり、死亡した。

やがてレイは再婚した。新しい妻は少しはにかみ屋だが、若くて美しいマオリ人の未亡人であった。こうしてたちまち彼女は10人の子を持つ優しく愛情深い母親となった。そのほかにレイとの間にも4人の子供をもうけている。こうしてハモン夫妻はこのようにして現在までに31人の子供を養育した。その大半は孤児である。

レイは40年以上を森の中で暮らし、そして働いた。しかしその後、背中に大けがをして重労働を続けることができなくなり、経済的な苦勞と戦いながら、もんもんとした毎日を送るしかなかった。ある朝、子供たちが学校に出かけた後、夫婦は寝室でひざまずき、このような窮状を打開するための助けを願って祈った。祈りを終わって立ち上がった時、レイは6歳の娘がボールペンと画用紙を忘れて学校へ出かけたことに気がついた。彼はそのボールペンを取って絵を描き始めた。小学校を卒業して以来絵など書いたことがなかった。まさに靈感に導かれたきっかけである。

それから熱心に絵を勉強し、伝統的なスタイルにとらわれない独特の様式を開拓していった。それはフランダースの画家、ヴ

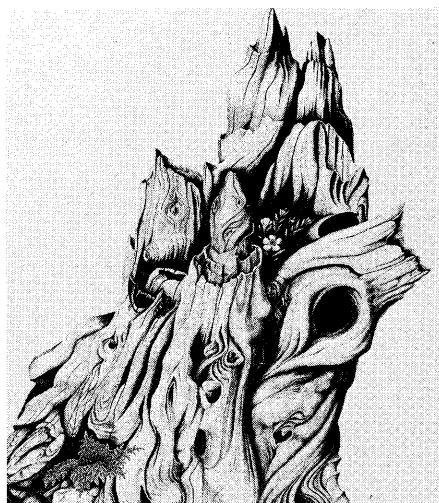
アン・アイックの細かい描写とスーラなどフランス印象派の点描画家の技法を合わせた彼独得の画風である。画面に線をほとんど使わず、紙や羊皮紙にペンを叩きつけてつくる細かい点によって構成していく絵である。

レイは最初に仕上げた絵が気に入らず、しばらく隠していた。ところが妻がそれを見つけて写真をとってもらおうと地元の写真家の所へ持って行った。写真家はその見事な絵に驚嘆し、その絵をさっそくオークランドにある一流の画廊へ持っていった。画廊の主人は即刻レイの個展を開きたいと申し出た。彼はもっと上等なペン先の製図ペンをレイに紹介した。それによりもっと細かいところまで自由に描写できるようになり、彼は一躍有名になった。こうして彼の新たな仕事が始まったのである。以来、彼はニュージーランドの主要都市のほとんどで個展を開き、つい最近も自分の作品の展示と彼がスポークスマンとなっているニュージーランドの自然環境に関する講演で2万キロに及ぶ旅行を終えたばかりである。レイは今まさに、この13年間で約百回の美術展を開こうとしている。先日も自然保護に関する講演と絵の展覧会の目的でソ連の招待を受けたばかりである。

「オカリトの宝石」

女王に献上したこの絵は、自然と自然保護に対するレイの姿勢とその芸術性を表わす代表作である。絵の中に描かれているオカリト淵を囲む山林は、ニュージーランドの白さぎ、コックの最後の生息地である。コックはマオリ族にとって神聖な鳥であり、数年前にはエリザベス女王に「テ・コック・

レングタヒ」(遠来の珍しき白さぎ)という名称を付けて敬意を表わしたほどである。この絵に描かれているマタイ、トタラ、カヒカテア、カウリの大樹は、渦を取り巻く壮麗なポダカーブの森林を表わしている。鳥が止まっている枝は、生殺与奪、鳥の運命を握る人間の手をさし、上に伸びる枝は、ニュージーランドの伝統保護に働く人々を支持する右手を象徴している。しゅろの木に寄り添って咲く可憐な4つの花は、この世の中で最大の祝福、両親から愛され守られている子供たちを象徴している。それは、自分の家族を守ることができるような環境を保護してほしいという願いでもある。レイの絵画のほとんどにはこの種の願いが込められている。



▲ナギモドキの樹幹。流木を描いたもので、左側のシダは、ハモン家の初めての養子チェリーを表わしている。また、中央部の花は、この作品を描いている当時のチェリーを描写したものである。

▼ワダ。ハモン画伯のこの作品は、どんな所でも、たとえ荒廃した自然の中でさえも豊かな生命が見いだされることを告げている。

レイが選ぶ画題

レイ・ハモンが描くものと言え、もっぱら森に住む動物や植物しかない。他の国でもよく見かけるニュージーランドの牧場や町並の風景は描かない。茂った葉や虫と共に、ごつごつと節くれだった昔の大木やつる草、シダ、そしてそれに群がる虫などを好んで描いたのも、ニュージーランド特有の自然に対する彼の愛情から出たものであった。レイは自分の考え方をつづった詩集も出版している。

彼は鮮明な記憶をもとに筆を取る。仕事はほとんど家人が寝ついた真夜中に、静かな自室に籠って行なう。そのようなひと時のことを、彼はこう記している。「我が心はこよなく愛する外界の秘境へと飛翔す。



……思索のきわみにあって心は我知らず、意識と半意識とを隔てる薄いどばりを取り払い、創造と作画の力は平生の力を超越す。我はより大いなる力、別の手が我が手に加えられしを知る。」

レイの絵にはこのような経験がよく反映されている。ある美術評論家は、レイの絵画を評してこう述べている。「レイの絵画は見る人に生育と腐朽をたどる自然の過程と、ニュージーランド人の目を捕らえ、いやお

うなしに厳粛な深みの中に引き込んでいく不思議な魅力を持った奥深い森林に象徴されている力強い生物の姿を伝えている。……彼の描く光景は……実体そのものよりもさらに鮮明に私たちの目に映る。」

ある人はこう述べている。「上辺を見るだけでは何もわからない。ゆっくり時間をかけて深く鑑賞しなければならない。そうすると絵の美しさや意味が理解できるようになる。」



世の中の水準から言えば、レイはまだ大金持ちといえないが、美術家仲間における彼の作品の評価は高まる一方である。先頃は絵画一点が2万ドルで売れた。これは現役の点描画家の作品としては世界最高の値段である。

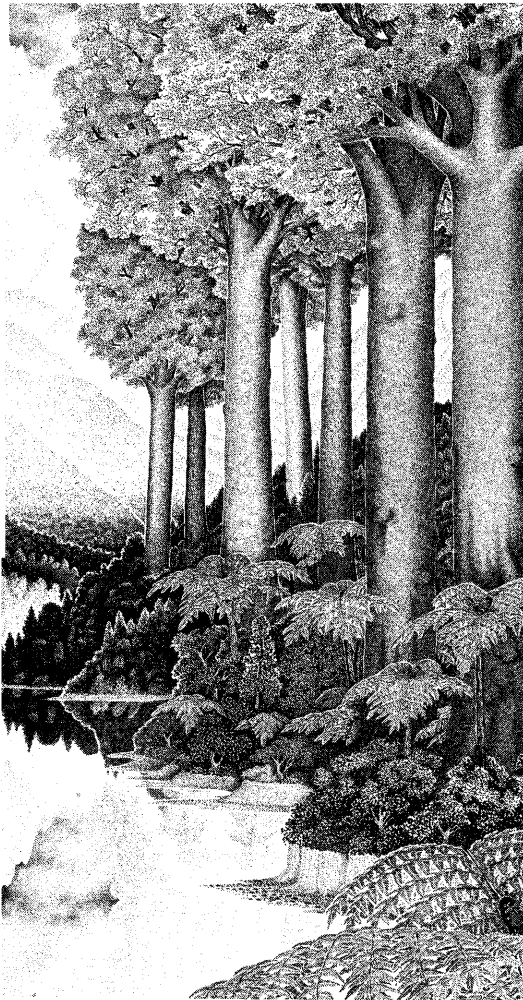
宗教画

レイの初期の絵画の大半は「ニュージー



▲フラックス。1970年の作品。ニュージーランドの植物の質量感が見事に表現されている。他の作品と同様に、この作品も記憶によって描かれたものである。

◀1976年、エリザベス女王に献上された「オカリトの宝石」。ハモン画伯の巧みな自然描写の粋とも言える作品である。



ランドの森の画家—レイ・ハモン」(*Rei Hamon, Artist of the New Zealand Bush*)という本に収録されており、現在第2版が発刊されている。この自叙伝には美術作品と共に、画家レイ・ハモン自身のことがこまごまと書かれている。一日の家族の祈り、十代の少年少女たちとの交流、家族の永遠性、毎週行なわれる家庭の夕べの大切さ、仕事、祈りの結果などについて、レイ自らが淡々と書いている。この書の中で、彼は自分の価値観について明快に宣言している。

「生活を支える必需品以外で、世の中に何が一番必要かといわれたら、私は即座に神を畏れる母親の愛と、父親の模範であると答えるだろう。私たちの家庭は未来を創る泉である。泉が清ければ、世間へ流れ込むその水を汚染から守ることははるかに容易である。……

去来する歳月の中で、私は愛する自然の驚異を知り、心の行き届いた妻と14人の子供たちへの感謝と愛をますます深くしている。……過去の思い出や、これまで学んだ原則の霊的な価値に比べると、王の宝石もひと握りの土くれ同様である。

末日聖徒でない読者を対象として書かれたこの伝記は、レイの持つ末日聖徒の信仰の最も深い真義を教えている。

才能と証が融合したレイの芸術は、当然人々の目を引いた。ニュージーランドのある新聞記者はレイの人柄と芸術を次のような言葉で評している。「理想的なニュージーランド人だと目される人が現在、何人かいるが、レイ・ハモンもそのひとりである。……彼はいかにもニュージーランド人らしい魅力的な風貌を持っている。……マオリ人の血を引き……マイアというマオリの妻がいる。レイは温厚で、気取りがなく、家

族を大切にしている。さらに彼が暮らし、働く場である森の風景をこよなく愛している。人と交わることを好む。それでいて自分のしっかりした基盤を持ち、自然との孤独な交わりを通して力を得ている。彼は……天真らんまん、質朴を絵の心とする独学の画家である。彼は独自のビジョンを持っており、独自の技法で表現しようとする測り知れない努力によってそれを培ってきた人である。

レイの人生と作品は、ひとりの忠実な末日聖徒の画家の最たる模範である。彼は支部長をはじめ、テムズ支部のほとんどの役職を経験し、現在は支部伝道主任を務めている。妻のマイア姉妹は扶助協会会長である。レイは世間からもてはやされるようになってからも依然として家族中心の姿勢を変えない。彼は自分の絵画、書物、講演、生活態度を通じて福音を伝えている。母国の伝統と自然に寄せる深い愛情を描きながら、同時に自分の篤い信仰をも表わそうとしている。

彼はこう書いている「絵画は大いなる祝福と素晴らしい仲間によって造られるものである。その素晴らしい仲間のひとりが主である。愛する妻、子供たち、兄弟たちも皆そうである。私は大きな祝福のうちに導かれてペンを運んだ。この仲間をつなぐ鎖の輪がひとつでも欠ければ、私たちの芸術もその美も必ずや力を失う。私はこの仲間のひとりであることを謙虚な気持ちで受け入れ、そのことに感謝したいと思う。」

リチャード・G・オーマン

教会歴史部記録保管主事。ソルトレーク・リパティースターキ部高等評議員。

おじいさんの木



けたことを、思い出しながら答えました。

「この木はもう、くたびれている。わしの家族が、はじめてイタリアにきたときに植えたんじゃ。わしが最後の生き残りじゃ。この木と生きてきたが、わしはこの木といっしょに、死んで行く。」

「おじいちゃん、ぼくがいるじゃないか。オリーブの木の世話を手伝うよ。」

アーマンは、大声で言いましたが、おじいさんは何も言わず、オリーブ畑を見ていました。

アーマンは、農夫の話を耳にした。

「イタリア中が、季節はずれの寒さだ。オリーブの実だけじゃないよ。木だって、助からないかもしれない。」

村の学校からの帰り道、農夫たちが木に大きなテントをかぶせているのが見えました。でも、おじいさんには、冷たい風から木を守る、テントや燈火びんを買うお金がありません

おじいさんが、飾られてねじ曲がった古いオリーブの木に、そっと手をおいているのを、アーマンは見っていました。

「このオリーブの木は、わしと同じじゃ。年老いて曲がってしまっ。」

「冷たい空っ風のせいだよ。」

アーマンは、強い風が何日も吹きつ

んでした。おじいさんにできること
といえは、木のそばにいることだけ
だったのです。

寒い夜、アーマンはいつも、おじ
いさんのすきな野菜スープを作り、
おじいさんの帰りを待ちました。や
っと帰って来たおじいさんは、ひじ
のすりきれたうすい上着をぬぎなが
ら、ふるえていました。

ふたりの食事が終わると、戸をた
たく音がしました。戸をあけると、
シグノル・チュライニが入って来ま
した。シグノルは、あいさつをする
と、火のそばへ来て、両手をあぶり
ながら言いました。

「言いにくいが、じいさんとこへ
あげる燈火びんはないんだ。三日間、
努力してみたんだが、手に入らなく
て。うちの畑の一部分しかないんだ
よ。」

「なんということじゃ。まるで、
死をまつようなものじゃ。」
おじいさんの望みを失なった声に
アーマンの心はしずんでしまいました。
そのとき、シグノルはおじいさ
んの方を向いて言いました。

「うちの畑は、じいさんの畑より
まじだらう。ちょっと来て、燈火び

んをどこにつければいいか教えてく
れないか。」

アーマンには、おじいさんの心が傷
ついたことが、わかりました。自分
の木を見殺しにして、どうして人の
木を救えるでしょうか。しかし、お
じいさんは、はっきりと答えました。

「アーマンとふたりで行こう。」

その夜、アーマンは、おじいさん
と、オリーブの木のことを考えまし
た。きびしい寒さは、オリーブの緑
の葉を、からし、おじいさんの活気
まで、うばい取ってしまったのです。
木がかれたため、おじいさんはさび
しく、そして、悲しくなったのでし
た。

よく朝、おじいさんはベッドから
起きてきませんでした。アーマンは、
畑を歩き、かれた木をひっぱってみ
ました。根は深く、とてもひとりで
はぬけません。

おじいさんは、とうとう病気になっ
てしまいました。アーマンはシグノ
ルに、町の大きな病院へ連れて行っ
てくれるようにたのみました。

次の日の午後、アーマンが自転車
で走っているとおじいさんのことば
が聞こえてきました。リンゴの花が

あたりに^{かお}香る、^{うつく}美しい^{はる}春の日でした。
アーマンはとつぜん、自転車を^と止め
ました。「リンゴの花だ。どうしても
と^{はや}早く気がつかなかったんだ。リン
ゴの木が植えられる。^{さんねん}3年、いや
^{にねん}2年で実がなる」と、大声でさけび
ました。

シグノルはアーマンを^{たす}助けて、か
れた木をぬきました。すっかりぬき
終わると、アーマンはシグノルに、
リンゴを植える^{けいかく}計画^{はな}を話しました。

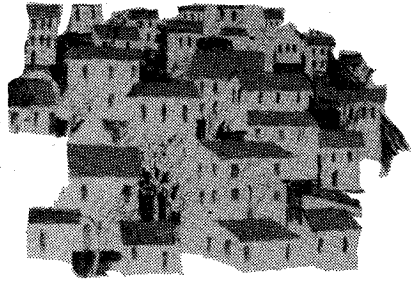
「おじいちゃんは、^{やす}安い^{さくもつ}作物^{つく}を作る
のがはずかしいだろうけど、リン
ゴの木はちがう。だって、^{まいどしと}毎年^と取れ
るんだから。」

「じゃ、うちの^{かじゆえん}果樹園^もから持って
行きなさい。仕事^{しごと}がすんだら、ふた
りでうちの手伝い^{てんい}をしておくれ。」と、
シグノルは^い言いました。

「ああ、わしの木が。」週末^{しゅうまつ}に、病
院からもどったおじいさんは、さけ
び声をあげました。

「わしの木がない。」

「そうだよ。木はもうないんだ。」
アーマンとシグノルが植えた^{わかぎ}若木^を、
おじいさんが、しらべているところ
をアーマンはじっと見ていました。
緑^{わかば}の若葉^{たいよう}に太陽^{かがや}が輝^{かがや}いています。お



じいさんは、わけがわからないとい
ったように、ふたりを見て言いまし
た。

「これはいったい何の木じゃ。オ
リーブじゃないが。」

「そうだよ。リンゴの木だよ。」
アーマンが、^{こた}答えました。

しばらく木をながめていたおじい
さんのその^め目は、キラキラと輝^{はじ}き始
めました。

「おお、アーマン。たっぷり^{みず}水^を
やって、^{くすり}薬^をまいて、^{えだ}枝^きを切^きってや
らんと。村一番^{むらいちばん}のリンゴにしよう。
しばらくして、季節^{きせつ}になれば、わし
とおまえで、リンゴをつめるぞ。」

おじいさんは、うれしそうに、ア
ーマンのかたに、手をおきました。

65 年^{ねん}前^{まへ}の北^{きた}メキシコ^{メキシコ}での生活^{せいかつ}は、モ
ルモン^{モルモン}の開^{ひら}たく者^{もの}やその家^{いへ}族^{ぞく}にと
つて、それは大^{たい}へんなものでした。そ
れでも、みんなは強^{つよ}く、いさましい人^{ひと}
でした。生活^{せいかつ}がまずしくて、神^{かみ}のみ
めくみが、あふれていたのです。

メキシコ^{メキシコ}革命^{かくめい}の間^{あいだ}、モルモン^{モルモン}の家^{いへ}族^{ぞく}
は、アメリ^あカ^かへのがれました。わたし
は、1912年^{ねん}7月^{がつ}の夜^よのことを、わすれ
ません。その夜^よ、父^{ちち}は神^{しん}権^{けん}会^{かい}に行^いき、
よく日^ひ、テキサス^{テキサス}州^{しゅう}のエルバ^{エルバ}ノ^ノに、子^こ
どもや姉^{あね}妹^{いもうと}、老^{ろう}人^{じん}たちを出^{しゅつ}発^{ぱつ}させると

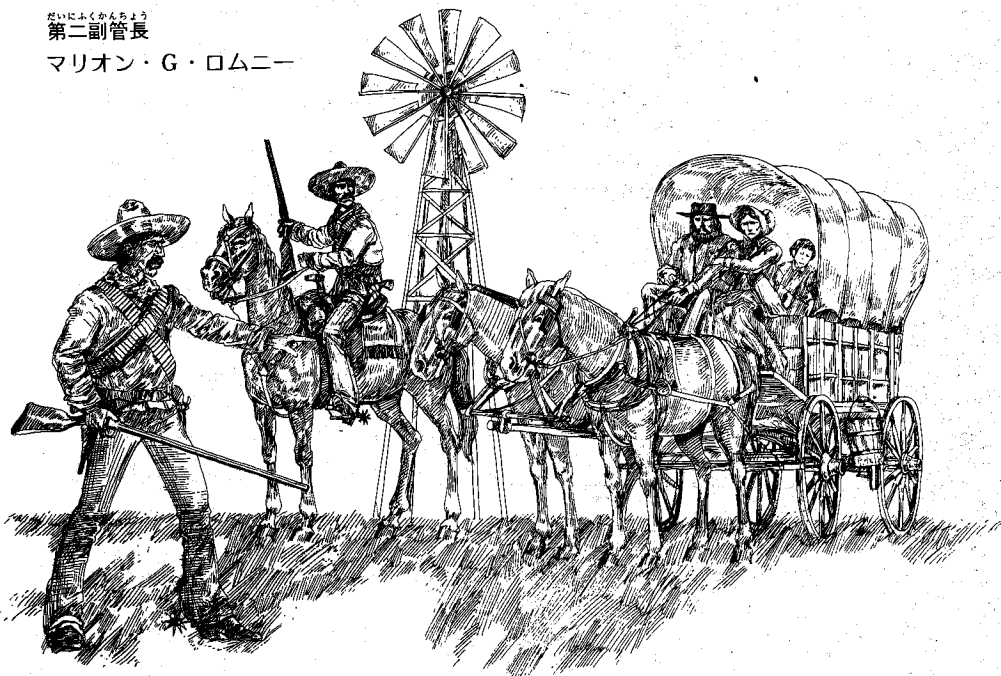
いう知^しらせをもつて、帰^{かえ}って来^きました。
はじめわたしは、わくわくしていまし
ましたが、次^{つぎ}の朝^{あさ}早^{はや}く、旅^{たび}の仕^した^{たく}に、起^{おこ}
されたときに、大^{たい}へんなことだと、感^{かん}
じました。

馬^ま車^{くるま}へ行^いく前^{まへ}、わたしは家^{うち}のうらにあ
る、すももの木^きの下^{した}にすわって、父^{ちち}に
さんばつをしてもらいました。父^{ちち}はわ
たしに、自^じ分^{ぶん}もいつしよに行^いきたいけ
れど、仕^し事^{ごと}がすむまでは、メキシコ^{メキシコ}に
いなければならぬことを、話^{はな}しまし
た。そして、わたしに、エルバ^{エルバ}ノにつ

かみ 神^{かみ}のめくみ

だいにふくかんちよう
第二副管長

マリオン・G・ロムニー



いたら、家族のめんどうを、よく見るようにといました。

朝の10時、わたしたちは、メキシコのアレスへ向けて、荷馬車^{にまぐる}で出発しました。母とおばのリディア、おじのジョージが、前にすわりました。うしろには、わたしのきょうだい7人と、おじの子どもがたしから^{にん}人、すわりました。わたしは、持って行けるだけの荷物が^{もつ}つまったトランク^{のうえ}の上に、すわられました。汽車は、いつばいで乗れなかったのです。

大通りにさしかかり、川をわたり、ダン・スカウンセンの製粉所^{せいほんじょ}をすぎたころ、わたしは今来た道を、ふり返りました。製粉所とサンジェゴ^{サンジェゴ}の間の平原^{へいげん}をぬけると、反逆者^{はんぎやくしや}の軍^{ぐん}が、北へ進んで行くのが見えました。隊形^{たいけい}をとらずばらばらに、進んでいました。

とつぜん、大きな銃^{じゆう}をかたにかけ、馬に乗った兵士^{へいし}がふたり、荷馬車の前に、あらわれました。ふたりは、大きなふえをぶらさげた、古いメキシコ風のくらに乗っていました。男は、弾薬^{だんやく}をさがすといって、荷馬車の中^{なか}をさがしました。弾薬こそ見つけませんでした。が、アメリカについたら使うはずの全さいさん20ペソを、見つけ出したの

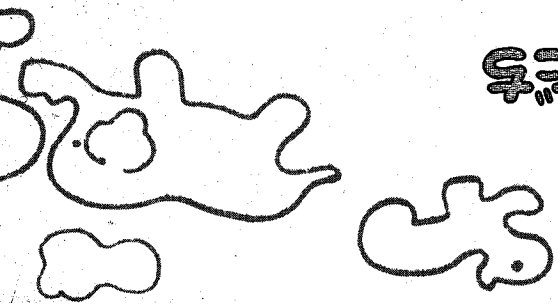
です。そして、20ペソをおじのジョージからとりあげて、南へ行くようにさしずし、北方^{ほつぽう}へ去って行きました。

しかし、兵士たちは、わたしたちの荷馬車から、100メートルほどはなれると、ふり返ってこちらの方^{ほう}へ向けて、銃^{じゆう}をかまえてきたのです。

とつさに、わたしはライフル銃^{じゆう}を見上げましたが、とても大きく思われましました。この時、わたしのむねはドキドキしました。うたれると、思ったからです。しかし、兵士は、うちませんでした。ゆつくりと、銃を下ろして、立ち去って行ったのです。これは、わたしのけいけんしたお話^{おはなし}です。

わたしは、とてもゆうきのある両親^{りやうしん}に、かんしゃしています。両親は、教会^{きやうかい}にねっしんでした。天父^{てんふ}と御子^{おんこ}イエス・キリストを、あいすることを、子どもたちに教えてくれました。わたしたちはみな、父なる神さまのむすこ、むすめです。また、御子^{おんこ}イエス・キリストのあがないにより、かならず、天のお父さまとともにふたたび、住むことができるのです。

けんちゃんの友達たち



ます。

「あそびに行ってもいい。」と、けんちゃんはお母さんにきいてみました。

「いいわよ。友かたには、もどいていらっしやいね。」

けんちゃんは、くつをはくと、外へとびだして行きました。そして、

野原へ行く道を、スキップして行きました。雨の後はみんな、さわやか

けんちゃんには、野原のはずれまで来ると、とんぼがえりて草むらの中を、おりて行きました。

せの高い草むらにねころぶと、シヤングルの中にあるようです。山の

中の森にいることになりました。そして、小さな虫になってみました。でも、ちっともたのしくありません。

けんちゃんはお日さまを見上げました。お日さまは、7777の大きな白い雲の間で、キラキラと、お

けんちゃんは、つまりませんで

た。だって、あそぶ人が、だれ

もいないのです。まあちゃんは、お

ばあちゃんのところ。いっちゃん、お

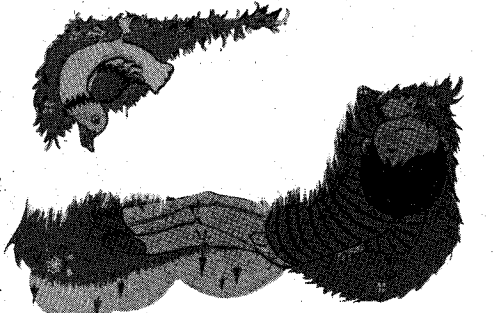
お父さんとさかなつり。お母さんは、

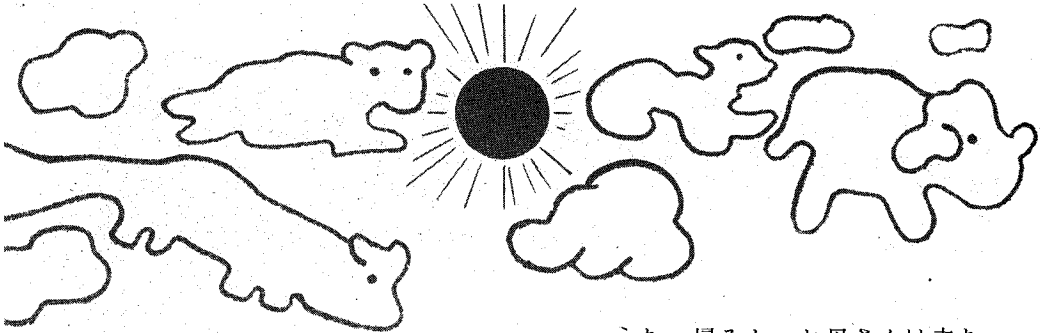
台所でおしごと。赤ちゃんは、おへ

やでねむっているからです。

きょうは雨でしたか、きょうは雲

の間から、お日さまが顔を出して、





どっているように見えました。

風が雲を、ゆらゆらゆれる大きな
耳と長いのはなのゾウの形にしました。
ゾウの向こうには、お日さまとおど
っている太ったクマや船、2ひきの

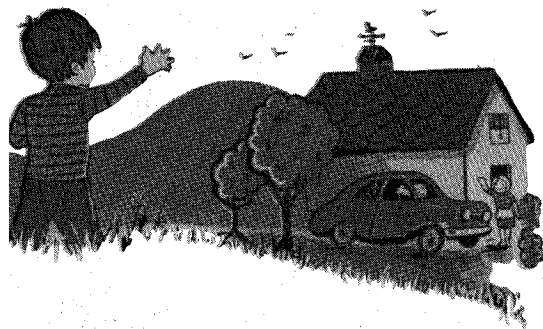
うちへ帰ると、お母さんは赤ちゃんを、せの高いいすにすわらせていました。台所は、あたたかくて、おいしいにおいがしていました。

「おかえりなさい、けんちゃん。」
お母さんが、にっこりしていました。

「野原でひとりで、あそんでたの。」

「ちがうよ。」けんちゃんは、うれしそうに、空にうかんだ雲のことを思い出しながら、こたえました。

「ぼく、きょう、新しいお友だち見つけたんだ。」



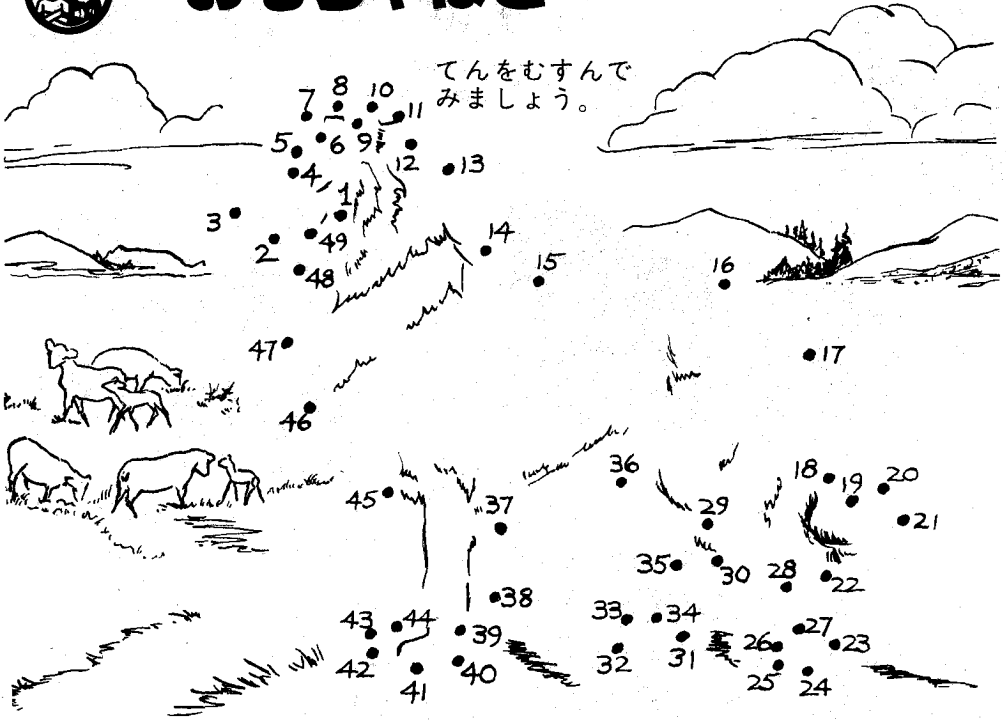
さかな、犬、それに電車も見えました。

けんちゃんは雲の電車を見て、お父さんが、夕がたには、帰って来ることを、思い出しました。

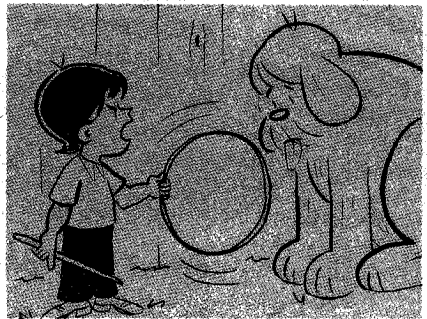




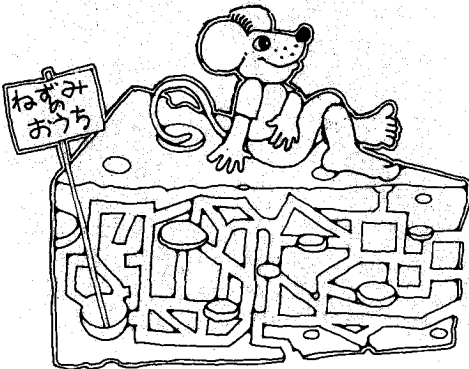
おもちゃばこ



ねずみのミルトくん
どのみちを とおると
ミルトのおうちへゆけるかな？



ためしてみもしないで、どうして
とおれないっていうの？





デブラ・スポング・ハドフィールド

マイク・ジョンソンとカート・ブリンクマンはふたりとも有名な身体障害者スポーツ選手です。彼らはアメリカ国内での競技のみならず、身体障害者オリンピックでも数多くのメダルやトロフィーを得ています。

まずカートです。彼は現在25歳ですが、あの16歳の夏の出来事は決して忘れられません。「私は身長が2メートルで、球技、特にバスケットボールが大好きでした。高校のチームに入っていて、ニューヨークでプロ選手になるのが夢でした。」

カートはアイダホ州シェリーで育ちましたが、いつも近所の農場で何かしら仕事を見つけて働いていました。「働くのが楽しかったんです。アルバイト料は伝道資金と大学の学費のために、そっくり貯金しました。」カートの貯金は6千ドルもありました。

彼が事故に遭ったのは、ある日の仕事の

休憩時間のことでした。

「若い頃って時々無茶をするものですよ。電柱を見て、ひとつ登ってやるかと思いき、本当に登ったんです。」目撃者たちの話では、7メートル半の高さからぬかるみに叩きつけられるまで、空中で3回感電のショックを受けたということです。「かなり高い所から落ちたため、地面に叩きつけられたショックで心臓がまた動き出して、お陰で命拾いしたという医師の話です。泥の中に横たわったまま、もうバスケットボールはできないと思いました。」

カートは病院でつらい半年を送りましたが、その彼にとって大きな支えとなったのは、家族や友人でした。親しい友人たちがよく見舞ってくれました。父親は彼に自立の訓練をするように真剣に勧め、町は医療費援助の寄付キャンペーンを行ないました。学校に戻ると級友たちが彼を励まし、お陰

でカートは人生の明るい面を見ることができました。級友たちと一緒に卒業もできました。

カートは証によっても助けられました。こう言っています。「私はモルモンであることを感謝しています。永遠から見ればこの人生はほんの点のようなものです。いつか足が元通りになって、また走れるようになるんです。」

カートはアイダホ州レックスバークのリックスカレッジで2年間ビジネスを学び、そこでボニー・ハイマスに出会いました。ふたりは1975年12月20日、アイダホフォールズ神殿で結婚しました。時同じく、マイクとジャン・クライヤーも1日前にプロボ神殿で結婚しています。でもこの2組は当時、まだお互いを知りませんでした。カートとボニーには現在、2歳の息子グレゴリー・アダムと5カ月の娘ロリアンがいます。グ

レゴリーは、カートの車椅子から宙返りでボニーの腕に飛び込むのが得意です。

マイクとジャンにも、2歳半のセス、1歳半のマット、8カ月のレイチェルの2男1女がいます。マイクはカートより数歳年上で31歳になったところですが、ジャンはそのことでマイクをからかいます。でもまだまだ車椅子競技では年を取っていません。カリフォルニアのスラロームの2級で優勝したのは50代の人だと彼は言います。

マイクはウエストバージニア州で育ち、両親が教会員です。彼はブリガム・ヤング大学に入学し、山に魅せられました。ハイキングや狩りに多くの時間を割き、今は息子たちに毎晩野生動物の話をして聞かせています。「ただ本を読んでやるよりも好きなんです」とマイクは言います。

ジャンの話では、セスが目を輝かせて聞き、話が終わると、「こんなお話、あんまり



好きじゃないな。別のお話して！」とねだるそうです。

マイクはブリガム・ヤング大学での1年が終わると、海軍に入隊しましたが、ベトナムで仕掛け爆弾を踏みつけ、両足を切断しなければならなくなりました。マイクもカートと同じで、回復までの道のりは楽ではありませんでした。彼も家族の助けを感謝しています。マイクはこう述懐します。「父母がよく助けてくれました。父はベストを尽くせ、あきらめるなどと言って、生きる望みを持たせてくれました。」

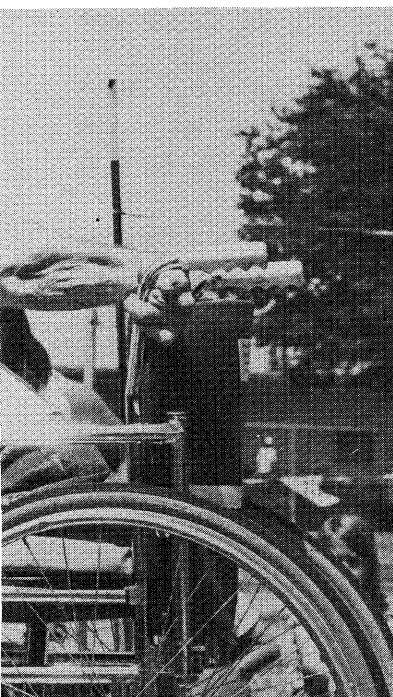
マイクは1971年にブリガム・ヤング大学へ復学しました。カートに出会ったのはその時です。マイクのカートに対する印象はこうでした。「車から降りる姿をじっと見えていました。車椅子の扱いが実に手慣れていて、僕らのバスケットボールチームに来たら主力選手になれそうだと思います。」

それで、勧誘のメモを車に置いて来たんです。」この誘いが友情の発端でした。

ふたりは、コロラド州デンバーでバスケットボールを一緒にしたある男性から陸上競技もしたらよいと勧められ、バスケットボール以外の試合にも出るようになりました。その男性が車椅子の国内競技について情報を送ってくれて、ふたりはブリガム・ヤング大学のトラックで練習を始めたのでした。1976年のことでした。

同年、彼らはデンバーへ行き、いくつかのトラック競技で1着になりました。それからカリフォルニア州サンホセで入賞し、ニューヨークでの国内予選、さらにカナダのトロントで開催されたオリンピックに出場しました。オリンピックには46カ国が参加しましたが、マイクとカートは合わせて金メダル3、銀メダル1、銅メダル3個を獲得しました。競技出場1年目の大記録でした。

マイクとカートは同じレースには出ません。カートは5級、マイクは4級です。選手は障害の程度に応じてクラスが決まるのです。重度な方から、数えて1から5まで



マイク・ジョンソンにとって一流のやり投げ選手になること、それは一にも二にも練習である



クロス・カントリーの練習に励むカート・ブリンクマン兄弟

の階級に分かれています。

それぞれの成績を見て下さい。

マイクはやり投げが得意です。4級で26.74メートルの国内記録を保持しています。また、スラロームではアメリカのチャンピオンです。スラロームは車椅子の操作技術とスピードを競う障害コースで、マイクのスピードには目を見張るものがあります。ジャンはスラローム競技を見るのが大好きです。「わくわくするの。観客はみんな熱狂しますよ」と言うジャンです。

ジャンがオリンピックを観戦に行けなかった時、マイクは一戦ごとに電話をして来て、全競技に入賞したことを知らせたものでした。まず初挑戦のローン・ボウリングで1位、卓球で1位、100メートル競走で2位、やり投げで3位でした。マイクは800メートル、100ヤード、水泳でも金メダルを持っています。

1976年のデンバー大会で、マイクは5個の金メダル、1個の銀メダル、そして大会の最優秀男性選手のトロフィーを獲得しました。

今年、マイクは国内のバスケットボール30試合に出場し、最多得点部門で2位になりました。彼はテニスもしますが、ユタ州におけるシングルスで無敗を誇っています。その勝利の秘訣は何でしょうか。マイクは、「ボールが相手のラケットを離れた時にどこへ行くかわからなければなりません。そしてすぐさまそれに反応するのです」と話してくれました。

マイクはトラック競技やフィールド競技が特に好きなのですが、今年はどこへも遠征していません。「試合のために家をあげすぎました。陸上競技はやりたいですが、家族第一ですからね」と言います。

ジャンは、「一大決心だったんです。家にいて、夫、父親、それに庭師にもなるってよく決心してくれたものです」と、そばから言いました。

カートの記録もまた立派です。1977年4月と1978年にマサチューセッツ州で行なわれたボストン・マラソンで、車椅子部門第2位に入賞しました。彼は42.195キロを2時間34分15秒で完走しています。

ボストン・マラソンは合衆国で一番歴史のある最大のマラソン競技で、一流選手だけが選抜されて参加します。今年は気温5度以下の中を20人が車椅子で走りました。

ボストン・マラソン車椅子部門の今年の優勝者は、オハイオ州アクロン出身のモルモン、ケン・アーチャーでした。カートはこう言っています。「ケンは本当に立派な人です。あんな人もめったにいないでしょう。優勝した時、両手を上げてテープを切りながら、頭は謙遜に垂れたままだったんですよ。」

1977年に、カートはコロラド州デンバーの競技会で100ヤード競走、1マイル競走の優勝を初めとし、全種目に入賞しました。カリフォルニア州サンディエゴでは5種目に2位、3位を取りました。同じくカリフォルニア州サンホセでは、世界記録を破って100メートルに優勝しました。ローン・ボウリングと円盤投げでは3位、砲丸投げでは4位になりました。

その年、カートはユタ州ソルトレーク・シティで行なわれたデゼレトニューズ・マラソンとセントジョージで行なわれたパイオニア・マラソンで車椅子部門の1位になっています。1978年はニューヨーク・シティ・マラソンに優勝し、現在1500メートルの国際記録を持っています。

彼は1978年、1979年のデンバー・ロッキーマウンテン地区最優秀スポーツ選手に選ばれました。

マイクもカートも職に就いています。マイクは過去にユタ州プロボの州立病院のカウンセラーを務め、矯正所の立案者として活躍し、現在はブリガム・ヤング大学で衛生学を専攻しています。目標は大学バスケットボールチームのコーチになることです。

カートは保険セールス、ホテル事務、電話交換手、病院の保険事務など、いろいろな職業を経験しました。現在はプロボのハンディキャプト・アウェアネス社に勤めています。彼は1978年にブリガム・ヤング大学で心理学の学士号を取得し、今はリハビリテーションに関する修士号に挑戦中です。

教会活動も彼らの生活に根づいています。マイクはユタ州アルパインステーク部アルパイン第4ワード部のエクスプローラーを受け持っています。

カートとボニーはプロボ・ウエストステーク部サンセット第3ワード部所属で、カートは以前のワード部では長老定員会会長を務め、現在は定員会の第一副会長です。

彼らにとって奉仕も大切です。郡の身体障害者専用バスの購入資金獲得に、ふたりは公約をしてユタ湖の周囲185キロを16時間かけて車椅子で回りました。これは173.8キロを8日間で走破したという世界記録を大幅に短縮するものです。

カートは1978年5月に、ユタ州シーダー・シティーからソルトレーク・シティーまで457キロの距離を5日間で走破し、集まった1万2千ドルを身体障害者援助基金に寄付しました。

彼は旅行が伝道の間になると言ってい

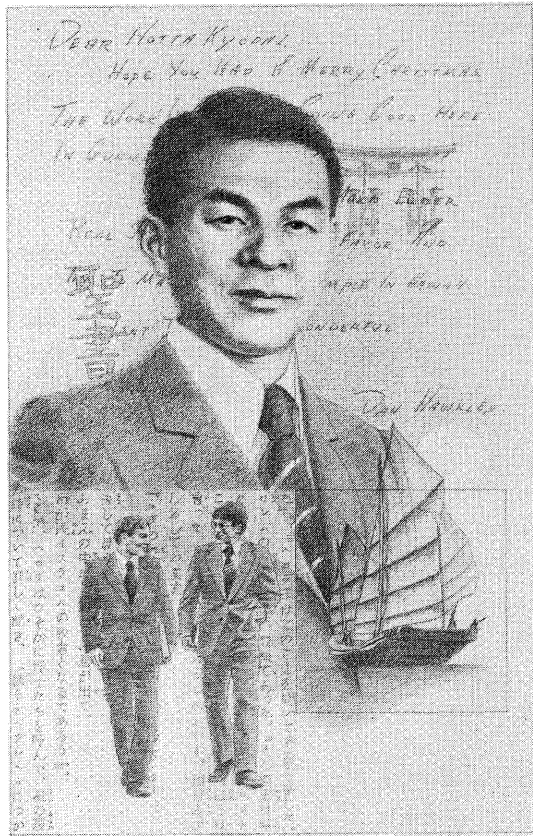
ます。ボストンで50人のスポーツ選手を招待してのパーティーの席上、お酒を飲まないわけを尋ねられて福音を紹介したということです。

人は障害者に会った時にどういう言動をとるべきか非常に気を遣いますが、カートにはそれがおもしろく感じられます。ものを言わないことの方が心を傷つけられると彼は言うのです。たとえば、子供が走り寄って来てどうして足がないのと聞く時、親は子供を制して引きたてて行ったりせずに、答えさせてほしいのです。「障害者とつき合っただけでいいという気持ちをお子さんに植えつけることとなります。それではどちらにとってもよくないですからね」とカートは言います。

マイクには彼なりのアドバイスがありますが、それは障害者であろうが、だれにでも通じることだと言っています。まず、彼は憶病者はきらいです。そしてこう言います。「できないかもしれないと思っても、挑戦することを恐れてはいけません。こうしたいと思ったら、110パーセント頑張ることです。目標が仕事でも教会でも、学校でも結婚でも、何でもあきらめないこと、決してやめないことです。」

カート・ブリンクマンは、4月21日に開催されたボストン・マラソンの車椅子部門で優勝した。

ボストン・マラソンはアメリカ合衆国のマラソン競技の最高峰とも言うべき大会で、世界中から選手が集まる。カートのタイムは1時間55分で、車椅子部門の大会新記録だった。このタイムは同マラソンで優勝したビル・ロジャーズの記録を17分上回るものである。ビル・ロジャーズは合衆国歴代マラソン記録の1位から4位までを独占している人である。



忘れ得ぬひとつのチャレンジ

堀田 徹

伝道部長は管轄下の宣教師から常に報告を受けることになっています。それだけでなく、帰還後の宣教師がどうしているかということについても、絶えず知りたと思っています。ところが、自分に福音を教えてくれた宣教師に自分の現在の状態を報告する伝道部長は少ないと思います。私

はこれからそれを実行したいと思います。

教会に入りたての頃、私は百分の一の律法の大切さがよく理解できませんでした。それでもダン・ホークリー長老、私はあなたのことはよく知っていましたし、信頼もしていました。それで私は百分の一を納めることをあなたと約束しました。私がこの

約束を守るかどうか、あなたが心配していたことはよく知っています。

1964年、日本には北部極東伝道部という伝道部がひとつしかありませんでした。あなたは私に福音を教えて下さってから数カ月後に、私たちの小さな支部から遠く離れた地方に転任されました。急行列車の窓からあなたが私に残して下さった言葉を今でも覚えています。「堀田兄弟、什分の一を納めて下さい。安息日を聖く守って下さいね。」

私はこの時のチャレンジを決して忘れません。しかし、正直なところ、その時の私は長老が持っておられたような金箔を施した美しい日本語の聖書を買いたいと思っていたのです。それを傍らに置いておけば、教えていただいた事柄や、教えて下さった長老のことを思い出すことができると思ったからです。でもそのような聖書は高価で、私には手が出ませんでした。

什分の一を納めなければあの聖書が買えるのにも思いました。「買いなさい。あなたのお金じゃないか。気にすることはない」と、サタンは私にささやきました。

しかし長老、私にはあなたのチャレンジが忘れられませんでした。それが聖なる神権の力と聖きみたまによるものであることを知っていたからです。私はその聖書を買いませんでした。そのお金で什分の一を納めたのです。このチャレンジを克服することによって、私は什分の一を納めることが主と私たちの間の誓約であることをはっきりと理解できました。

それから数カ月後に、菓子箱ほどの大きさの小包が送られてきました。開いてみると、聖書が入っていました。金箔の美しいあの聖書でした。あなたが私に贈って下さったものです。私はあなたの深い愛を感じ、

うれし泣きをしてしまいました。そして、表紙の見返しにこのようなあなたの言葉を見つけたのです。

「愛する堀田兄弟、クリスマスおめでとう。神のみ業はここ群馬の地でも進んでいます。一生懸命勉強して下さい。あなたならすぐに長老になれるでしょう。ハワイの神殿に入れるよう頑張ってください。福音は素晴らしいですね。ダン・ホークリー長老より」

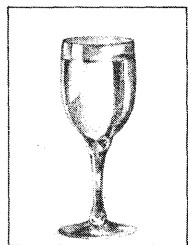
その時以来ずっと什分の一を納め続けています。また妻と一緒に神殿にも入りました。私ができるのはひとつに、長老が主の代理人として私にチャレンジし、約束を与えて下さったからです。

安息日を聖く守るために、私は一度仕事を变えなければなりませんでした。しかし私は、神が生きておられることを知っています。これは何という喜びでしょう。また結婚直後、重い病気にかかりました。2年間というもの、私の病状は悪くなる一方で、医師からは快復の見込みはまったくないと言われたほどでした。ところが、力強い神権の祝福によって完全に快復したのです。長老やほかの宣教師たちの助けがなかったら、私は神権の回復されたことすら知ることにはなかったでしょう。私に対する長老の深い思いやりと愛に、どう感謝したらよいかわかりません。

1979年7月2日から私は妻とともに、日本札幌伝道部を管理しています。ソルトレーク・シティで、ゴードン・B・ヒンクレー長老より按手任命を受けました。ホークリー長老、これが私からの報告です。長老からいただいた美しい金箔の聖書、何度も読んだために今では古く破れかけていますが、これは、私にとって最も貴い宝です。

唯一の まことの 宝

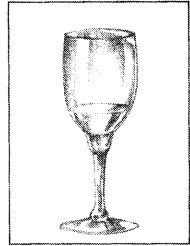
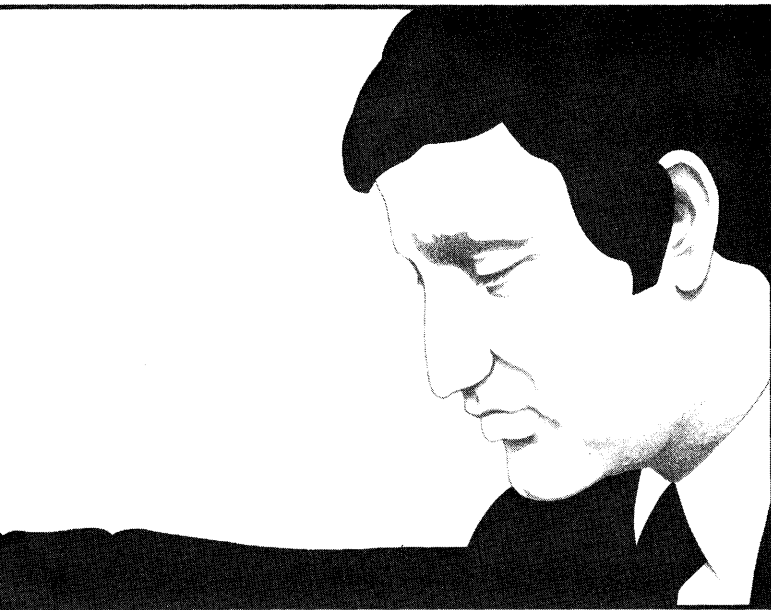
七十人第一委員会会員
F・エンツィオ・ブッシェ



人々は常に宝を探し求めています。自分自身のためになるもの、自分の所有物となり得るもの、自分を裕福にしてくれるもの、権力や安全、避け所を約束するもの、生命を保障するもの、そうした宝を求めているのです。人々は、このような宝を見いだすために、絶えず周りの世界に目をやっています。この探求は、過去において、人人をひとつの大陸から他の大陸へと駆り立てたひとつの原動力でもありました。人々は、新世界に宝があると考えたわけです。

しかしはっきりしていることは、この世の宝は決して人々が求めるものを与えることができないということです。長い人生の終わりになって、今まで集めた富や宝のどれをとっても、真に求めていた宝ではなかったことに気づく人が少なくありません。そのような人の心は空虚で満たされない不幸な思いで打ち沈み、不安がつのるばかりです。一方、唯一まことの宝は奇跡を生み

ます。つまり、その宝からはいつも祝福と恐れを克服する力が得られるのです。今私が話している宝とは、イエス・キリストを見いだすこと、すなわち主を知るようになることです。これは単に、主に関連することについてすべてを知るということではありません。この最後の神権時代に回復された末日聖徒イエス・キリスト教会において主に仕えることにより、実際に主を知ることです。現在伝道部長として働く私は、敬虔な気持ちでいろいろな国から来た多くの若者と共に伝道の経験を分かち合っています。彼らは、回復された、真実の、そして救いをもたらす福音のメッセージを人々に宣べ伝えるために、自らの楽しみや生活を忘れて2年という期間を主に捧げている天父の息子、娘たちなのです。このように、イエス・キリストに従ってそのみこころを行ない、この世的な欲望を克服できるようにするために、私たちはひとつの道



を選ぶのです。その道は、深い本当の満足感をもたらし、人生の恐れを取り除き、さらに生身の人間が持つこの世的な不安を克服する力を与えてくれるのです。

教会員である私たちは、日々重大な決定を下すよう迫られています。つまり、不安を抱いたままで毎日を過ごすか、あるいは、心に入り込んでくるすべての感情や思いを分析できるように常に祈りの気持ちで生活するかです。そのためには、天の能力ちからに頼ることを学ぶ必要があります。その能力は聖霊の導きを通して私たちに克己心ちからをもたらし、また私たちを聖なる場所に立たせてくれます。これは、実際に何を意味しているのでしょうか。日々私たちの生活にあって、幸福と喜びをもたらし、自信と力を得させるまことの宝とは何でしょうか。それは、救い主、贖い主、メシヤ、エホバ、そしてエロヒムの独り子であられるキリストと個人的な関係を築き、毎日をキリストと

そのみたまで満たすということです。すなわち、みたまのささやきを受け入れ、理解し、常にそれに従うことです。みたまのささやきに従うには、恐れに打ち勝つ勇氣と決意が必要です。みたまは、私たちを見知らぬ道、時にはだれも足を踏み入れたことのない道、人一倍苦勞する道、そして世の人々の道とはまったく異なる道へと導くことがあるからです。例えば、みたまは、怒る人に向かってほほえむようにとささやくかも知れません。また、憎しみに燃える時に愛を示すように、感謝する気持ちになれなくても感謝するように、人々のいやがる仕事を引き受けるように、弁護したい時に詫びるようにささやくかも知れません。そして、みたまが義しく正直で素直な心にささやく時には、たとえ馬鹿げたことに思えても、すべて従わなければならないのです。みたまの導きに従って歩むことは、聖典にあるように「虫も食わず、さびもつかず、

また、盗人らが押し入って盗み出すこともない」(マタイ6:20)天に宝をたくわえることなのです。

しかし、天に宝がたくわえられるからと言って、ただ待ち望んでいるだけでは祝福は得られません。絶えず祈りの気持ちを持ち、終始一貫して聖きみたまに従うことが必要なのです。そうすれば、この世にあって驚くべき奇跡の数々を目にすることができるようでしょう。毎日が新鮮で、見るものすべてが驚きに変わり、理解の目が開け、人生の見方が変わってきます。そして最後に、新たな次元における喜びと平安が訪れるのです。

私たち末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、天からの直接の啓示によって導かれています。私たちは、みたまと一致することが神のみこころに添う道であり、その時に求めるものはすべて得られるということを啓示によって知るのです。「『みたま』によりて願う者は、神の旨によりて願うなり。この故に、正にその願うが如く聴かるなり。」(教義と聖約46:30; 50:29をも参照)

ここで皆さんに、私の人生を感化し、私の理解の目を開いたある貴重な体験をお話したいと思います。私は仕事で何人かの顧客と取引きをしていました。もちろん酒やたばこを口にする、馬鹿げた冗談を言うなど、一般の習慣でみたまがよしとされないことはしませんでした。常にお客とは良い関係を保とうと努力していました。ある日、ドイツのドルトムントにある事務所で仕事をしていましたと、得意先のお客から電話がかかってきました。パリからで、彼の会社がそこで展示会を開催しているとのことでした。彼は、商談もあるので来ないか

と私を誘いました。とっさに、私はみたまによって、彼が私をパリに呼んだ理由はもちろん商談もありますが、本当はぜいたくなその町でだれか遊ぶお金を払ってくれる人を見つけるためだとわかったのです。取引きには願ってもない機会でしたが、それから先に待ち受けている困難とも言える選択の数々を考えると、私はちゅうちょしました。しかし、セールスマンの義務として、行かなければならないことを知っていました。私は心の中で、自分の標準を曲げることなく成功を取める力を与えたまへと必死に祈りながら、夜行列車でパリに向かったのです。

翌日の昼過ぎ、友達は何りの車で私を迎えてくれました。仕事の話をする雰囲気ではないのがすぐわかりました。フランス語も知らないまったくのよそ者の私に、町や娯楽場を案内しながら話しているようでした。私はより一層天父に祈りました。すると、慰めばかりでなく、平安や喜びさえもが心に満ちてきました。私は友達に、会えたことの嬉しさを伝え、大切な用事があるので夜早いうちに帰らなければならないと話しました。彼は私を見て、笑いながら言いました、「いや、いや、明日までは帰しませんよ。話し合わなければならない重要な事柄が山ほどあるんです。それに、こっそり、町を御案内しましょう。だれも見人はありませんし、私も秘密にしておきます。さあ、きょうは、大いに楽しみましょう。」

彼の言う楽しみとは、私のそれとは完全に異質のものです。でも同時に、彼の会社との取引き、私の会社の行く末を左右するものであることも私は知っていました。私は、助けを求めてさらに真剣に祈りました。彼は、知る人のみぞ知るという場所に

私を連れて行こうとして、とうとう、ある小さなしゃれたレストランに入りました。みたまは、彼と一緒に食事をするのは悪いことではないと告げたので、私はそれに従っていつ終わるとも知れないたくさんの高価なフランス料理を食べることにしました。当然流暢なフランス語を話す彼がふたりの食べ物を注文しました。そして、ワインは結構ですという私の強い主張にもかかわらずワインを2本頼んだのです。

私たちは楽しく語り合いました。彼のボトルは空になり、一方の私のは以前として手がつけられずに置かれていました。ついそれに気づいた彼は、ボトルを取って私と彼のグラスにつぎました。彼は右手でグラスを持って私の目をのぞき込んで言いました。「親愛なるブッシュェさん、私があなたこうしているのをどんなに喜んでいることか御存知でしょう。あなたがそうやって標準を守っておられるのもわかりますがしかし、きょうはどうか私の健康を祝してこのグラスをあけてくれませんか。もしそうならなら、今後一切お宅とは取引きをしませんよ。」

まさに、血も凍るような思いでした。そしてこのように言う声が聞こえました、「ブッシュェ兄弟、さあ、決断を下す時がきましたよ」と。私の心の中に飲まないことに対するあらゆる言い訳が浮かんできました。しかし、私は口を開く前に、ひとつの力によって捕えられ、たちまち大きな喜びと光で満たされたのでした。驚いたことに、私は自分の右手で彼の肩を抱いていました。みたまは、私が自分では考えつかないことを言わせたのです。それは、状況を一変させてしまいました。私はこのように言っていたのです。「……さん、あなたはそんな

お人じゃありません。仕事ではいつも正しい決定をされる。そのあなたがそんな非合理的な基準で決断を下すことなどありませんよ。」私は彼を抱きしめ、そして深い愛と友情を込めて彼の目に笑いかけてました。彼はしばらくびっくりした様子でぼかんとしていましたが、やがて彼の目に涙があふれてきました。彼は私を抱きしめると、話し始めました。それは私に詫げる言葉でした。彼は泣きながら、こう言ったのです。

「どうか、私を許してくれたまえ。君がワインを飲んだら、私は、君を笑ひ者にしよう、思っていた。私は君を負かそうと思っていたが、君は私の永遠の友達になったよ。もう心配しないでくれ。食事が済み次第、列車に間に合うように駅まで送ろう。それから、君ができる範囲で好きなだけ私から仕事を取ってくれたまえ。」

そして、すべてはその通りになりました。その夜、帰りの寝台車の中で、私は喜びと幸福の涙を流しながら、適切な時に正しい方法で助けを与えて下さった主に感謝を捧げたのです。

私は、神が生きておられることを知っています。改宗後21年間、それは私の心の中にあります。私たちが心の中で義しいことができるようにと常に祈るならば、主はいつかの時でも助けを与えて下さいます。

イエス・キリストを知らずに世を送ることに甘んじてはなりません。主のみたまの慰めによって、私たちは新しい道を歩むことができるのです。その道は、この世に来る前に目指していた方角に私たちを導き、さらに大きな光と知識と力と喜びを日々もたらしてくれます。この道を見いだし、その行程を歩むことこそ、人生における唯一のまことの宝なのです。



アントニオへの訪問

コリン・ダグラス

宣教師の頃、私は同僚との間に何かしっくりといかないものを感じていた。その原因は何であったのか、いまだにわからない。それは私たちが同僚を組んでからわずか数週間後のことである。私たちふたりはブラジルのある小さな町を歩きながら、心の中に怒りや高慢な思いが込み上げてくるのを感じていた。ささいなことが鼻につ

いて、同僚関係そのものが気まずくなっていたのである。互いの祈りも次第に形式的になり、腹立たしい思いがつのるばかりだった。この義憤の念は事あるごとに鋭い言葉へと変わった。そしていつしか、みたまは私たちから離れていた。

ある午後のことである。それまで私たちは幾日もかけて求道者探しや会員の訪問に

努めたが、さっぱり成果が得られなかった。その日の午前中はいつものように伝道した。午後には行くあてもなかったのので、伝道報告書の空欄を埋めるためにアントニオを訪問することにした。アントニオは教会の会員ではなかったが、彼の妻が数年前に改宗して、たまに集会に顔を出していた。彼は宣教師を尊敬しており、病気の時には宣教師に癒しの儀式を求めるほどの信仰があった。私自身、同僚と共に2度ほど癒しの儀式を施したことがある。私たちだけでなく、これまでの宣教師も皆、同じようにしていた。私たちはあのことが起きるまで、アントニオが腹部の癌のためにあと数カ月か、恐らくは数週間しか生きられなかったということを知らなかった。

その日、玄関口に応対に出てきた姉妹の顔には、張りつめたものが感じられた。その表情にはありありと苦悩がうかがわれた。彼女は私たちが台所に通してくれた。台所のドアを開けると、そのままアントニオの部屋に通じていた。そこから、狭いベッドで身をよじらせて激痛に耐えているアントニオの姿が見えた。彼は私たちがいることにさえ気がつかないようだった。

私たちはすっかり動転してしまって、すぐにはどうしたらよいかわからなかった。アントニオの妻は私と同僚の方を黙って見ている。私たちは顔を見合わせ、アントニオを見て、それから目を伏せた。その時、本当にどうしたらよいか思い当たらなかったのである。さらに悪いことには、それまで同僚と一言も言葉を交わしていなかったので、自分たちが霊的に助けられるような状態にないことを感じていた。やがてどちらかが、しばらくふたりだけになれる部屋があるかどうか尋ねた。彼女は私たちが寝

室に案内してくれた。私たちは戸を閉じてからひざまずいて交互に祈った。祈りの中で、最初にアントニオについて主のみこころが何であるのかを知らせて下さるように願った。静寂の中で私たちが受けた答えは、私たちがふさわしくないばかりに主の答えが受けられないというものだった。この思いは痛烈に私たちの心に鳴り響いた。私たちは、自分たちが高慢でつまらない思いを持っていたために神権を行使する力が得られなくなったことを悔い、自分たちに落ち度があったことを互いに認め合って、それを主に告白した。気まずい思いで祈り始めた祈りが、いつしか嘆願に変わっていた。私たちがふさわしくないためにアントニオまでも祝福を奪われて苦痛に悩むことのないように主に請い願った。私たちの罪を赦し、アントニオを祝福するに足る信仰と力を与えて下さるように、さもなければ私たちがとは無関係にアントニオを祝福して下さるよう切に訴えたのだった。

私たちは平安を感じるようになるまで交互に祈った。恐らく30分間はこうして祈っていたに違いない。やがて私たちはひとつの気持ちになり、部屋を出て、アントニオの頭に手を置き、みたまの導くままに祝福を施すことにした。

こうして私たちが部屋を出ると、姉妹から尋ねられた。「祈って下さったのですか。」私たちが祈ったことを伝えると、彼女はこう言った。「主人は息を引き取りました。」

私たちは言いようのない罪悪感に責められながら家を出た。愚かにも人とのささいな行き違いから祝福を授ける力を失ったあの苦い経験は、今でも辛い教訓となって私たちの心の奥底に刻み込まれている。

勝利者のくつ

七十人第一定員会会員

ロバート・L・バックマン

「人はその心に思うそのままである。人格はその思いの具象である。」これは、ジェームズ・アレンがその古典「人、その思うごとくに」の中で語っている言葉である。私はかつて伝道部長をしていた時、この言葉とまったく同じことを宣教師たちの生活に見てきた。

あるひとりの宣教師が伝道部へ赴任してきた。私は彼と面接し、宣教師の義務と責任、規則などについて話した。宣教師に期待されることをかいつまんで説明していると、彼は話をさえぎってこう言った。「ちょっと待って下さい、バックマン伝道部長。その前に覚えておいて欲しいのですが、私は本当につまらない人間なんです。」

私は、彼も神の子であり、その召しを果たす大きな力を持っていることを教え、この世で彼にしか与えられていない使命があることを気づかせることを心に決めて、彼にひとりの先輩宣教師を割り当てた。この先輩宣教師は、彼のやる気のなさなど意にも介さず、聖典を学び、自分を成長させ、務めを果たすよういつもチャレンジを与え、一生懸命に彼を励ました。その上、私自身もきついチャレンジを与えたため、この宣教師、次に私が伝道部を巡回して来て顔を合わせる時には私の鼻柱をたたきつぶしてやると言っているという報告が担当の監督長老から入るほどであった。

それから数週間もたたないうちに、私は妻を連れて、解任前の最後の巡回に出た。宣教師一人一人と会って、彼らへの愛と信頼の気持ちを伝えた。問題の新任宣教師の番が回ってきた。私は彼を部屋に入れ、ドアを閉めた。そして眼鏡をはずして言った。

「長老、自分で正しいと思うなら、遠慮はいらない。さあ、私をたたきのめしなさい。」さあ、パンチが飛んで来るぞと私は思った。ところが意外にも、彼は私の腕の中に泣き崩れてきたのである。その後のひとは本当に素晴らしいものであった。私は、人々に仕え、愛するために神から与えられている彼自身の潜在能力についていろいろと私が知っていることを話した。そして最後に、もし私を喜ばせようとする気持ちがあるなら、2年後、解任された時にソルトレーク・シティーの私の事務所を訪れて、召しを立派に果たしたことを報告して欲しいと告げた。

伝道部長の任を解かれて故郷へ帰り、2年ほどたったある日の朝のこと、私は事務所で仕事をしていましたが、机から目を離して顔を上げると、ドアの向こうにひとりの青年が立っていた。あの宣教師である。あいさつの言葉もそこそこに彼はこう言った。

「伝道部長、無事に伝道を終えることができました。」

私はこの宣教師を誇りに思っている。もうひとり、とても内気で恥ずかしがりの宣教師がいた。私と目を合わせると、顔を赤らめってしまうほどであった。この宣教師の家は養豚業を営み、そういう環境の中で育った彼は、人というよりも豚と一緒にいる方が気持ちが落ちつくのである。立派な宣教師になりたいという気持ちとは裏腹に、人と話すということは彼にとって大変な苦痛であった。後に、その宣教師が属するゾーンで、ゾーン大会を開いた時、彼はこう証した。「伝道部長、宣教師になるということは、フットボールをするのと同じことだということに気づきました。」彼は高校進学のために家を離れた時のことを話した。入学の手続きをする時に、フットボールチームがあることを聞いて、自分も入りたかったが、フットボール用のくつも、またそれを買うだけの余裕もなかった。その時、

ふと、いとこのことが心に浮かんだ。このいとはこれまで学校のフットボールチームのスターとして活躍していたからである。早速、そのいとこを訪ね、彼はくつを貸してもらえないかと頼んだ。いとこは自分はいていたくつを貸してくれたが、その時、こう言った。「このくつを汚すようなことはしないでくれよな。」

こうして彼は学校のフットボールチームに入った。そのシーズンの開幕試合で、彼が自分の真向いに見たのは、見るからに意地の悪そうな、大きな選手だった。そのものすごい選手を見ただけで、生唾が出てきた。

そして心の中でこうつぶやいた。「ぼくにはとても彼を倒すことができない。でも、いとこならできるかもしれない。そして、ぼくはそのいとこのくつを履いている。」こうして彼は意を決して突進し、その相手を倒したのである。それからはその試合中ずっとその選手を倒すことができた。

彼がどのような宣教師になったとお思いだろうか。

明るい思いをもって人生に取り組み、人生と人生における自分の役割について積極的な考えを持つことは本当に大切なことである。私は宣教師たちによくこう言って聞かせた。「できると信じればできるし、できないと信じればできない」と。私はある時、宣教師たちに雑誌で見たマルハナバチの絵をあしらった広告のことを話したことがある。その絵の下には次のような言葉が書いてあった。理屈から言うと、マルハナバチは飛べるはずがない。空気力学のあらゆる理論から考えて胴体はその羽よりも大き過ぎるからである。しかし、当のハチはそんなことは知らない。だから飛ぶのである。」

マルクス・アウレリウスは「人の人生は、その人の思いによって造られる」という言葉を述べている。

あるユースコンファレンスで、人が神の

子供として持っている可能性というテーマで話し合ったことがある。その席で、ひとりの女の子が証をした。「私は自分でできると思ったことしかできないことを知っています。大会が終わって家へ帰ったら、鏡をのぞきこんで、こう言うつもりです。スーザン、あなたは美しいわよって。」

イエス・キリストの福音と、自分は神の子供であるという思いを身にまとった末日聖徒は、この世の中で最も前向きに物事を考える民である。慈悲深い天父が私たちをこの地上に置かれたのは、成功させるためであり、失敗させるためではない。

この思いは私たちが信仰によって歩む助けとなる。私たちは物事を楽観的に考え、神の永遠の救いの計画の一部となっていることを堅く信じなければならない。もし私たちがもっと積極的な思いを持ち、熱心に楽天的にこの世を送ることができるならば、問題はすぐに解決する。

「人はその心に思うそのままである。」

若い兄弟姉妹の皆さん、皆さんは成長するにつれて、自分にしかない個性、輝かしい将来、イエス・キリストの福音が教える美しい真理、そして救い主との個人的な関係について、もっと積極的な思いを持つようにしていただきたいと思う。そういう積極的な思いこそ、現世における豊かで実りのある生活、そして来世においては永遠の生命と昇栄とを約束し、皆さんを行動へ駆り立てる力となるのである。

使徒パウロはピリピ人へあてた手紙の中で、聖徒たちが積極的な思いを抱くように願って次のように述べている。

「最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。」(ピリピ 4：8)

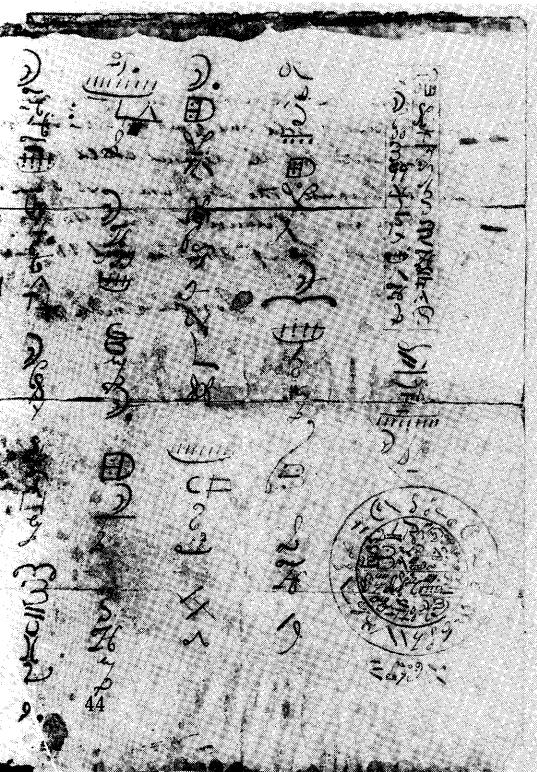
金版の文字の写し，発見される

このほど，モルモン経の金版からジョセフ・スミスが直接に転写したと思われる文字の写しが，一収集家の手によって発見されました。

もしこれが本物であるとすれば，この一枚の紙は現在知られている末日聖徒の記録の中で最古のもの，またジョセフ・スミスの手書き文書としても最も古いものとなります。この金版の文字の写しが，1828年2月にマーテン・ハリスを通じてニューヨーク・シティーのチャールズ・アントン教授

とサミュエル・L・ミッチェル博士に見てもらうためにジョセフ・スミスが書き写したものの一部であることは明らかです。

この文書を発見したのは，ローガンにあるユタ州立大学の医学部予科の学生で，歴史文書や古物の収集をしているマーク・ウィリアム・ホフマン兄弟です。文書はソルトレーク・シティーのある人から買い求めた古い聖書の中にはさまれていたものです。この聖書は，1668年に英国で発行されたもので，17世紀以降スミス家が所有してきた



▲マーク・ホフマン兄弟（左端）が発見したジョセフ・スミスの文書を検分するスペンサー・W・キンポール大管長（中央）。それを見守る大管長会のN・エルドン・タナー，マリオン・G・ロムニー両副管長と十二使徒定員会のボイド・K・パッカ一長老，ゴードン・B・ヒンクレー長老。右側にあるのが，ホフマン兄弟がこの文書を発見したスミス家の聖書。

◀1828年にジョセフ・スミスがモルモン経の金版から写しとったと思われる縦組み文字。

ものと思われます。

この写しの片側には文字が縦組みに並んでいて、他方の側にジョセフ・スミスの言葉が書き加えられ、最後に署名が入っています。

「これらの文字は、私が自分の手で金版からひとつひとつ刻明に写しとり、ニューヨーク・シティーの識者に見せるためにマーテン・ハリスに託したものである。しかし識者たちはこれを翻訳することができなかった。主がいざや書第29章11節に記されている予言を成就させるため、彼らにその文字の意味を明らかにしたまわなかったからである。」

ホフマン兄弟はこの文書を、保管と、真偽の調査研究のために教会歴史部に託しました。この記録は酸化を防ぐためにプラスチック加工される予定です。ホフマン兄弟はまた、ジョセフ・スミスの曾祖父がその父親かわからないが、サミュエル・スミスと署名の入った聖書も教会で保管するように申し出しました。ただ残念なのは、教会記録保管庫に比較対照できるサミュエル・スミスの筆記が残ってないことです。

教会歴史部の歴史史料主任検査員であり、モルモン自筆書類の権威、ディーン・C・ジェシー兄弟は、この筆記は確かにジョセフ・スミスのものに間違いないと述べています。

ホフマン兄弟は4月22日に、この写しを大管長会に提示しました。そして、4月28日の記者会見で金版の文字の写しが発見されたことが正式に発表されたのです。

ジョセフ・スミスは、1827年9月22日に天使モロナイから金版を受け取りました。そして、モルモン経の初版が印刷されたのが、1830年3月26日、ニューヨーク州のバルマイラにおいてでした。

マーテン・ハリスは後に、アントン教授とミッチェル博士に会った時の模様をこう

書き記しています。

「私はニューヨーク市へ行って君が書き写して置いた文字を、その翻訳と一しょに、文学上の学識で有名な一紳士チャールズ・アントン教授に提出した。アントン教授が言われるに、この翻訳は正確である。エジプト語から翻訳されたものの中、これより正確なものをまだ見ないほどであると。そこで私はまだ翻訳していない文字を出して見せたところ、これらはエジプト語、カルデア語、アッシリア語およびアラビア語などで、またその文字も本当の文字であると言われて、教授はバルマイラの人々に宛てて『これらの文字は真正の文字にして、またこれらの文字より翻訳されたるものもまた正確なり』と言う一通の証明書を私に下さった。私はその証明書をとってかくしに入れ、さて正に教授の家を立ち去ろうとした時アントン氏は私を呼び返して、その青年はその金版を見つけた場所に金版のあることがどうしてわかったかと聞かれるから、それは一人の神の使がその青年に在り個所を明したのであると言った。すると教授は『一寸、その証明書を見せて』と言われるから私はその言に従ってそれをかくしから取り出してお渡しすると、教授はこれを寸寸に引き裂いて『今時、天使が導きと恵みを与えるなどと言うことがあるものか。私にその金版を持って来なされるならば翻訳してやる』と言われた。よって金版の一部分は封ぜられているし、また持って来ることをとめられている、と告げた。すると教授は『私は封じてある書物を読むことはできぬ』と言われた。そこで私は教授の許を去ってミッチェル博士の許へ行ったが、同博士も文学と翻訳の両方に関しアントン教授の言われた言葉を承認された。」(History of the Church「教会歴史」1:20)

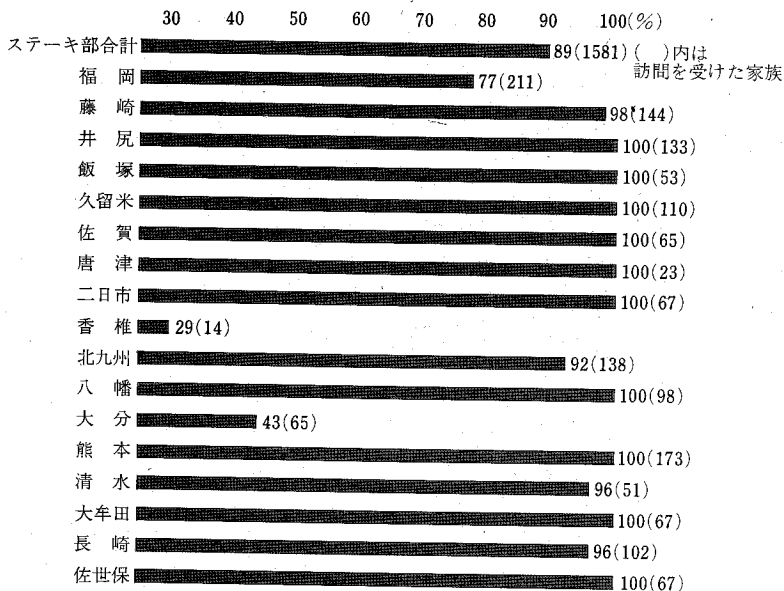
神権ホームティーチング 100%は達成可能

本誌5月号のローカルページで菊地良彦長老によって紹介されたオーストラリア・ブリスベーンステーキ部におけるホームティーチングのすばらしい実績は、日本でも啓発的なニュースとして受け止められました。あるステーキ部や地方部では、ブリスベーンステーキ部に負けない意気込みでホームティーチングに取り組むようになったと伝えられています。

次にあげる福岡ステーキ部の4月のホームティーチング記録（コーリレーション報告書より）と名護支部の玉城兄弟の証は、その様子を伝えています。特に名護支部の場合は、ホームティーチングを100%達成したために聖餐会の出席率が147%を記録したとのこと。これはホームティーチングが他のプログラムにいかにか大きな影響を及ぼすかということを示しています。

皆さんのワード部/支部のホームティーチングはいかがでしょうか。

福岡ステーキ部ホームティーチング記録



全会員へのホームティーチングによって得られた
聖餐会出席100パーセント

沖縄県名護支部

玉城 真光

私たちは、七十人第一定員会会員の菊地長老から4月中に一週でも聖餐会出席率を100%にするようにというチャレンジを受けました。私はその時なぜか嬉しくなって胸が小踊りするのを覚えました。

支部長会で計画し、支部コーディネーション評議会にはかって、4月20日の支部大会にそのチャレンジを果たすよう決意し、確認し合いました。

早速、具体的な計画を立て始めました。伝道部と地方部の指導をうけてホームティーチングをまず100%行なうことから決心しました。これまで割り当てられていなかった家族(会員)にもホームティーチャーをつけ、ホームティーチングを支部大会までに実行することを確認し合いました。まず活発な兄弟姉妹の名簿を作り、それにお休みの兄弟姉妹、会員の家族、友人、隣人等の欄を設けて招待できる人々の名前を記してもらいました。それから一人一人にチャレンジを与え、励まし協力を求めました。

兄弟姉妹たちは皆、喜んで積極的に実行してくれました。集会の度に100%達成について発表し、協力を求めました。会員たちに出会う度に努力の状況を尋ね、激励し、そのほかハガキを送ったり、電話もしばしばかけました。

ある晩、私が4月からホームティーチャーとなったひとりの姉妹を扶助協会の会長と共に訪問しました。いろいろ話した後、支部大会のことについて説明し、一度でも

全会員が集まって共に主を礼拝し、共に聖餐の祝福を受け、愛と一致を主に示したいと話して出席をお願いしました。彼女はそれならば行きますという返事でした。その時、私は自分の目が潤むのを覚えました。彼女はバプテスマを受けて約4年間、一度も安息日を守ったことがなかったのです。これまで何度も地方部大会に招待し、教会に来て下さいと頼み、励まして来ましたが、何の効果もありませんでした。そんな彼女が教会に来る気持ちになったのもみんなの協力があったからです。

去年のクリスマス、私たちはキャロリングをしながら彼女の家を訪れました。その時、彼女は娘さんとふたりだけでクリスマスを祝っていました。しかし、ふたりだけのクリスマスに彼女は少し淋しさを感じていたようです。私たちは大歓迎されました。小学生の娘さんがピアノを伴奏し、皆でクリスマスの歌をうたいました。彼女は今までこんな楽しい時を過ごしたことはありませんと喜びを体中で表わしていました。この姉妹が教会に来て下さったのは、支部の兄弟姉妹、そして宣教師の愛とたゆまぬ努力があったからです。

このようにして活発な兄弟姉妹たちは皆、一生懸命に働きました。そして休んでいる兄弟姉妹や自分の家族、友人、隣人、親戚の子供達を連れてきました。ただ数字にとられるだけではありませんでした。霊的に弱っている兄弟姉妹を強め、多くの人々

が福音に接し、福音に興味を持ち、福音の大切さを知る機会とすることができるよう努力しました。その結果人々を救いに導き、愛と一致を表わすことがいかに素晴らしく主に喜ばれることなのか、またそれがシオンの建設に是非とも必要であることを一人一人が身をもって知ることができました。(モーセ7章18節参照)これは大きな祝福です。

いよいよ聖餐会100%を達成する支部大会の日が巡ってきました。私はいつものように朝早く起きて心からの祈りを主に捧げました。昨夜聞いた天気予報によれば、今日は雷を伴う大雨ということでした。はたしてその通りで、昨夜より一層雨足が強くなっていました。私は雨が止むようにとは祈りませんでした。「支部の忠実な兄弟姉妹たちが心を一つにして、一生懸命頑張りましたからどうぞ、大いなる神様、彼らが愛を持って招待した兄弟姉妹すべての人々

がこのような悪天候の中にあっても心を教会に向けることができるように導いて下さい」と祈りました。日曜学校の時間に、私たち支部長会は地方部長の方々と話し合うことができました。その時、地方部長は、今日の聖餐会の出席は何名の予想ですかと私たちに尋ねました。私は降りしきる雨を横目で見ながら、110名ですと答えました。ところが聖餐会の開会が近づくにつれ人々がどんどん増えてきました。ホールは狭く廊下にも人があふれ、玄関の戸口まで兄弟姉妹たちで一杯になりました。私は開会の挨拶を述べながら熱気でむんむんする会場で、「会員数、107名のうち本日の出席者は108名です。私たちは菊地長老のチャレンジである聖餐会出席100%をここに達成することができました。」と発表しました。そしてただありがとうございますの一言しかほかにも何も言えませんでした。

「伝道資金」への積極的な献金を！

日本・韓国地域代表役員 菊地 良彦

現在、毎月10～15名の日本人専任宣教師が召されており、その数約200名が全国各地で伝道の業に励んでいます。しかし、一方では伝道を希望しながらも、個人では十分な伝道資金の備えができないため、伝道に出る時期を延ばしている人も全国に大勢います。

そこで、私たちは資金面で何とか彼らをお助けしたいと考えています。

つきましては皆様に、「伝道資金」への献金をお願いしたいと思う次第です。

なお、献金は、献金用紙の欄に御記入の上、監督／支部長にお渡し下さい。

会員の皆様の一致した協力と心からの献金によって、伝道活動が成功するようお祈りいたします。

お詫び訂正

本紙5月号p.46に以下の誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

右の段、上より18行目 ヨーロッパ北西部地域→アメリカ合衆国北西部地域

日本・韓国地域の改宗者数

5月のバプテスマ数

宣教師数

札幌	82	147
仙台	36	158
東京北	78	184
東京南	455	193
名古屋	69	183
神戸	152	201
岡山	233	176
福岡	69	188
韓国ソウル	72	110
韓国西	96	118
韓国釜山	220	140
計	1,562	1,798

